

室蘭工業大学国際交流センター

Center for International Relations
Muroran Institute of Technology

2014年度

活動報告書

Annual Report, 2014



目 次

1. 報告書の発刊にあたって 国際交流センター長(理事・副学長) 加賀屋 誠一	1
2. 国際交流ポリシー	3
3. 国際交流センターの業務	4
4. 国際交流センターの組織	5
5. 学内及び学外の会議等	8
6. 国際学术交流	13
7. 外国人留学生	17
8. 国際交流センター教員が担当した講義	26
9. 室蘭工業大学国際セミナー	29
10. 留学生を対象とした行事, 研修等	30
11. 学术交流協定校との交流	39
12. 学生の海外への派遣	45
13. 外国人短期研修生・外国人研究員・外国人インターンシップ研修生受入れ	54
14. 国際交流クラブ	56
15. 広報活動	57
16. 教員の研究活動	59
17. 国際交流センターに関する新聞記事等	61
18. おわりに 国際交流センター准教授 山路 奈保子	65

1. 報告書の発刊にあたって

国際交流センター長(理事・副学長) 加賀屋誠一

【本報告の趣旨】

本報告書は、各年度の国際交流センターの活動と成果並びに課題をまとめ記録し、大学当局への報告とすることを目的として、平成21年度から発刊されているものです。今年度で6年目を迎えました。またこの報告書は、これまで学内の教職員、学生にも広く配布公開されており、そのことによって国際交流とその活動に対する理解や支援をいただいております。同時に、これまでいただいた数多くの意見や提言に基づき、本学の国際交流活動のさらなる発展に結びつけております。すなわち、ある意味でPDCAサイクルを利用して活動の改善の役割を果たすものとして位置づけております。これまで海外からの研究者や留学生の受け入れや、本学教職員、学生の海外派遣においても制度や取り組みに有益な提言が寄せられており、それらも取り入れて業務の改善を図っております。さらに本報告書は、当センターの活動のみではなく、より広範に全学的な国際交流活動の貴重な記録としてもまとめられております。そして完成した報告書は、周辺の広域的な地域社会並びに全国の関係機関にも配布を行い、本学の国際交流活動の発信、広報を多くの方々に行っております。

本報告書が多くの人々に読まれることで、室蘭工業大学全体の国際交流活動をますます活性化させ、本学の教育と研究のグローバル化、高度化に貢献することを期して願うものであります。

【本年度の成果の概略】

この1年間、室蘭工業大学の国際交流活動に関連し、多くの成果がありました。その基本的な方向性は、平成23年度に制定された本学の国際交流規範というべき国際交流ポリシーとその具体的な行動指針である国際交流アクションプログラムに示されております。これは国際交流センターの行動指針であるとともに、より広く全学の関係委員会・グループの協力のもとに国際交流活動を進めていくことを目指すものです。すなわち、相互に連携協力しあいながら国際交流活動を推進していくことを目的としているのです。今年度は、その活動を具体的な工程表に基づいて、目標達成を目指すことを推進してまいりました。

具体的には、今年度も数多くの学術交流協定校の拡大と更新を行いました。大韓民国東義大学校、江原大学校が新たな協定校に加わり、また初めて南アメリカの協定校として、ブラジルパラナ連邦工科大学およびサンパウロ州工学研究所との学術交流協定が結ばれました。特にパラナ連邦工科大学は、日本における初めての協定校として昨年の調査から今年の学長訪問による調印式まで双方の熱意が現れた結果として、今後の交流が大いに期待されるものです。また前回の学術交流協定締結から5年を経た更新も数多く行われ、われわれにとって非常に多忙な一年となりました。その結果、現在41の大学等及び機関との間で、国際学術交流協定の締結がなされております。このような活動を軸に今後も量的、質的に活発な学術交流協定校との交流を進めていき、国際交流の輪を拡大していくことが重要だと思います。一方、学生の海外研修も活発に行われました。具体的にはオーストラリアのロイヤルメルボルン工科大学(RMIT)との語学研修交流、ヨーロッパ語学研修に多くの学生が、今年も参加しました。今年度は初めての試みとして、米国ウェスタンワシントン大学における英語研修も実施され、本学学生の語学力の発展に寄与するものと期待されております。また例年のように学術交流協定校主催のサマースクール、交流事業にも本学学生が参加しております。さらに学生の長期留学もヨーロッパの交流協定校を中心に進められてきております。このように派遣のプログラムも多様化し充実してきております。相互の語学研修ではRMITが

らの日本語研修生 9 名、泰日工業大学からの短期研修生 2 名の受け入れ、さらにインターンシップ研修生も中国、韓国、インド、タイ、オーストリアなどから受け入れました。留学生も年々増加していますが、平成 27 年 5 月には 135 名を数えるほどになります。このように学生の受け入れ、派遣については国際交流をめぐる日本の政策のあり方とも関係しておりますが、活動が活発となってきております。留学生やインターンシップ学生の増加により、宿舎関係も込み合う状態となっており、一昨年開設された「国際交流会館」の利用も多く、運営も順調であるといえます。しかしながら、予想される留学生や外国人研究者の増加に伴って、宿泊施設の整備充実が必要で、今後の検討課題であると言えます。

国際共同研究関係では、8 月に協定校である韓国の韓国海洋大学校及び九州工業大学と国際セミナーを、10 月に協定校であるタイ・チェンマイ大学及び公立ほこだて未来大学と国際デザインワークショップを開催し、3 月には協定校等から研究者を招へいし、2 日間にわたり国際シンポジウム「JSED2015」を開催しました。

文部科学省においても国際交流への対応として、卒業生、修了生に対する人的交流と情報発信を行うためのネットワークの充実の推進が図られておりますが、本学においても人的ネットワークの整備が進められてきております。Facebook やメール交信の頻度は増加しており、また特に関東地域に就職等で居住している留学生とは年 1 回の情報交換会をおこなっております。また海外、例えば中国における同窓会の集まりも定期的に行っています。さらに今後の留学生確保のための進学説明会についても、日本語学校に出向いたり、協定校を訪れた際に、実施しております。このような PR 活動は交流促進に直結しており、今後も機会のあるごとに進めていくことが必要であると考えております。

以上、今年度の成果を総括してみました。次年度以降においても国際交流ポリシーを基に、そのアクションプログラムを 1 つ 1 つ実現しながら、留学生の活躍を支援し、また本学の日本人学生、教職員一体となり、教育・研究および社会連携にその成果を発揮し、きらりと光る大学としてグローバルな展開を行えるように、センターとしての努力を切に望んでおります。

【あしがき】

私としては、センター長として 3 年目を迎え、その役割の最後の年になりました。この 3 年間は、まさにあっという間の年月であったと実感しております。業務の多さでそれらを完結できず、何かにつけて、いろいろご迷惑をおかけし、不行き届きが多々あったと反省しております。にもかかわらず、本年もいろいろな側面で、センターも一つ大きくなり、また成長してきたと実感しております。これもセンタースタッフの献身的な働きと国際交流委員会委員の皆様のご協力があったからこそと深く感謝申し上げます。また日頃、教職員の皆様には数多くのご支援をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。さらに今年も大きな国際交流の輪を構築していただいた留学生とそれに加わった日本人学生にも感謝したいと思います。最後に、本学の国際交流の輪とウェーブが益々大きくなり、グローバルな展開ができるフラッグシップとなるよう祈念しております。

2. 国際交流ポリシー

室蘭工業大学国際交流ポリシー

平成24年3月16日制定

(前文)

大学における研究活動のグローバル化はもとより、高等教育の国際市場化、大学卒業生雇用の国際化が進む情勢の中で、室蘭工業大学の国際交流の基本的な考え方を示し、教職員の活動、施策立案の指針とするために、本国際交流ポリシーを制定する。

1. 基本姿勢 室蘭工業大学は「幅広い教養と深い専門知識とともに国際社会で通用するコミュニケーション能力、実践力を持つ人材を育成する」との目標を実現し、本学の基本理念に基づいて国立大学として期待される国際的機能を果たすために、教育および研究における国際交流を推進する。
2. 教育 国際活動に必要なコミュニケーション能力とは、語学力のみでなく、積極性、行動力、自国および他国の文化に対する理解等を含む幅広い実践力であり、留学生を含む本学学生の全てがこのような能力を持つよう、教育上の努力をする。教職員もまた高いコミュニケーション能力を涵養し、国際的に貢献する。
3. 研究 教員は研究成果を世界に発信するとともに、海外機関との交流を推進して、研究の一層の活性化に努める。これはまた、学生の国際活動能力、研究能力向上のための教育活動でもあることを認識して研究を推進する。
4. 留学生受入れ 各種の留学生を積極的に招致する。学部留学生、大学院留学生、その他の短期留学生の適切な配分に留意し、本学の教育研究に資する優秀な学生の招致に努める。またそのための受入れ体制、教育体制の整備、更新を推進する。
5. 地域貢献 地域の国際交流に大学として貢献するとともに、地域の国際交流力を本学の国際活動、国際教育の推進に積極的に活用する。
6. 運営 上の国際交流推進のため、教育プログラム、施設および学習環境、広報および海外ネットワーク、事務体制およびリスク管理体制、ならびに、これらに必要な予算措置について、長期的な展望をもってその整備を進める。

(付記)

国際交流とは、本学教職員学生による教育、研究上の、海外機関および外国人との交流活動全般をさす。研究成果の国際的発信および研究教育上の交流、各種留学生の受入れと教育、本学学生の国際性教育に関わる外国機関、外国人との交流、事務職員の国際活動を含む。

3. 国際交流センターの業務

現在の国際交流センターの業務は次のとおりである。

(1) 国際交流事業に関すること

- ・ 外国の大学等との交流協定締結, 更新等の支援事務
- ・ 交流協定校等との交流事業, 行事の支援
- ・ 本学教職員の国際活動の支援
- ・ 本学学生の国際性教育の支援
- ・ 本学の国際交流推進に係わる企画と立案, その支援

(2) 外国人留学生に関すること

- ・ 留学生(正規生, 研究生, 聴講学生, 短期研修生, インターンシップ研修生を含む)の受入れ支援及び受入れの促進
- ・ 留学生に対する日本語教育その他の教育と, 共通教育及び専門教育の修学支援
- ・ 留学生のための宿舎など生活支援にかかわる業務, 相談への対応
- ・ 留学生のための各種奨学金の広報, 応募, 申請, 配分支援などに係わる業務
- ・ 卒業, 修了者も含めた留学生との交流促進

(3) 外国人研究員に関すること

- ・ 外国からの研究員, 教職員の受入れ支援

(4) 学生の海外派遣に関すること

- ・ 本学学生の海外留学, 短期研修, 国際会議参加などの支援

(5) その他, 国際交流及び留学生に関すること

- ・ 国際交流に係わる他大学, 地域自治体, 諸機関との連携活動

4. 国際交流センターの組織

4.1 国際交流センターの構成員

2014年度(平成26年度)の国際交流センターの人員構成は、専任教員2名、事務職員3名、特定専門職員1名及び事務補佐員1名の計7名である。センター長は理事(連携担当)・副学長が兼務している。

国際交流センター長	加賀屋 誠 一(理事・副学長)
専任准教授	門 澤 健 也
専任准教授	山 路 奈保子
ユニットマネジャー 兼ユニットリーダー	武 井 正 弘
国際交流ユニット	武 川 梢
国際交流ユニット	遠 藤 仁 郎
特定専門職員	内 藤 直 子
事務補佐員	野 田 葉津希



左上段より、内藤 直子・武川 梢・遠藤 仁郎・野田 葉津希・山路 奈保子・加賀屋 誠一・門澤 健也・武井 正弘(敬称略)

4.2 国際交流委員会

2010年度から、従来の兼任教員に代わり、新たに「国際交流委員会」が発足した。その任務は次のとおりである。また、議題の審議のみでなく、本学の国際交流に関連する企画立案、提言、事業実施への協力支援の機能も期待されている。

- (1) 国際学術交流及び国際交流事業に関すること。
- (2) 外国人留学生の受入れに関すること。(外国人留学生入試に係るものは除く。)
- (3) 外国人留学生の奨学金に関すること。
- (4) 学生の海外留学に関すること。
- (5) 外国人研究者の受入れに関すること。
- (6) 外国人インターンシップ研修生の受入れに関すること。
- (7) その他国際交流事業及び外国人留学生に関する事項

所 属	職 名	氏 名
国際交流センター	センター長	加賀屋 誠 一
国際交流センター	准教授	門 澤 健 也
国際交流センター	准教授	山 路 奈保子
機械航空創造系学科	教授, 理事補	清 水 一 道
建築社会基盤系学科	教 授	大坂谷 吉 行
建築社会基盤系学科	准教授	後 藤 芳 彦
機械航空創造系学科	教 授	齋 藤 務
機械航空創造系学科	教 授	藤 木 裕 行
応用理化学系学科	教 授	庭 山 聡 美
応用理化学系学科	准教授	上 井 幸 司
情報電子工学系学科	教 授	鈴 木 幸 司
情報電子工学系学科	准教授	植 杉 克 弘
全学共通教育センター	教 授	クラウゼ小野 マルギット
全学共通教育センター	准教授	ゲイナー ブライアン
国際交流センター事務室	ユニットマネジャー	武 井 正 弘



清 水 一 道



大坂谷 吉 行



後 藤 芳 彦



齋 藤 務



藤 木 裕 行



庭 山 聡 美



上 井 幸 司



鈴 木 幸 司



植 杉 克 弘



クラウゼ小野 マルギット



ゲイナー ブライアン

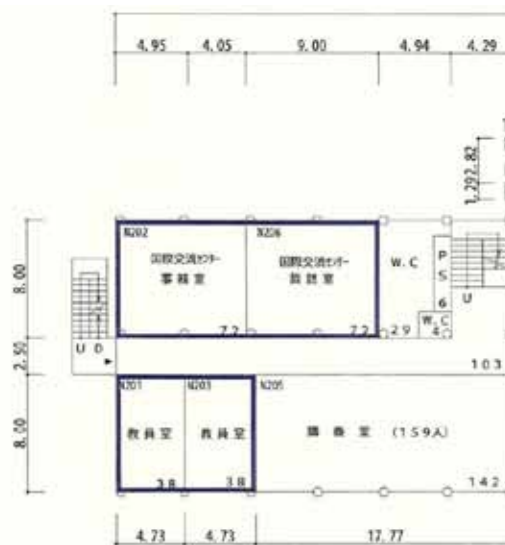
4.3 センターの活動拠点

国際交流センターの活動拠点は以下の図及び写真に示す事務室、談話室並びに2名の専任教員の教員室である。

2010年度末に談話室の間仕切り工事をおこなった。留学生同士および留学生と学生、教職員の交流懇談を目的として2スパンの談話室が準備されているが、その半分が日本語教育の講義室ならびに国際交流委員会等の会議室として頻繁に利用されていることから、本来の機能が十分果たせていない状態であった。これを可動式の遮音壁で間仕切りし、かつセンター事務室との間にドアを設けて直接通行を可能にし、本来の交流談話の機能を十分に発揮することができるようにした。留学生教育に有効に使用することが期待されている。



学生対応の様子



学術交流協定校、学生からの記念品展示棚



国際交流センター談話スペース



日本語授業風景

5. 学内及び学外の会議等

5.1 国際交流委員会

国際交流委員会は、(1) 理事又は副学長のうちから学長が指名する者。(2) 国際交流センター長。(3) 国際交流センター専任教員。(4) 各学科及び全学共通教育センターから選出された講師以上の教員各 2 名。ただし、1 名は教授とする。(5) 国際交流センター事務室長。(6) その他学長が必要と認めた者で組織される。

2014 年度の国際交流委員会開催日及び審議事項等は以下のとおりである。

第 1 回 4 月 24 日(木)

議題1. 韓国・東義大校との学術交流協定の締結について

2. オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学との学術交流協定の更新について
3. 日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費給付制度受給者選考について
4. 室蘭工業大学私費留学生支援奨学金受給者の選考について

報告1. 学術交流協定締結までの手順改正について

2. 国際交流ポリシーに係る優先アクションプログラム実施答申について
3. 第2期中期目標期間における平成26年度計画について
4. 平成26年4月留学生受入状況について
5. 派遣留学生の選考結果について
6. 民間団体等からの奨学金受給者の選考について
7. 学術交流協定校の中国・華中科技大学訪問結果について
8. 泰日工業大学短期研修生の受入れについて
9. 留学生オリエンテーションについて
10. 学術交流協定校からのサマースクールについて

第 2 回 5 月 19 日(月)(持ち回り)

議題1. 韓国・安東大校との学術交流協定の更新について

報告1. 海外研修の募集について

2. 学術協定校のサマースクールについて

第 3 回 6 月 18 日(水)

議題1. ロシア・ヨッヘ物理技術研究所との学術交流協定の更新について

2. 室蘭工業大学研究推進経費(外国人客員研究員招へい)受給者の選考について
3. 室蘭工業大学派遣留学・語学研修支援制度について
4. 特別研究学生(外国人留学生)の指導教員変更について
5. 国際交流ポリシーに係る優先アクションプログラム実施WGについて
6. 英文パンフレットリニューアルにかかるWGについて

報告1. 平成 25 年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」の申請結果について

2. 民間団体等からの奨学金受給者の選考について
3. 室蘭工業大学佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞者選考結果について

第 4 回 7 月 7 日(月)(持ち回り)

議題1. 研究生の出願資格について

2. 特別聴講学生(外国人留学生)の受入れについて

第 5 回 7 月 29 日(火)

議題1. ポーランド・AGH科学技術大学との学術交流協定の更新について

2. 韓国・忠南大校との学術交流協定の更新について
3. 研究生(外国人留学生)の選考について
4. 特別研究学生(外国人留学生)の受入れについて

- 報告1.平成27年度学術交流協定に基づく派遣学生募集について
2.平成 26 年度室蘭工業大学研究推進経費(外国人客員研究員招へい)受給者の募集について

第6回 8月28日(木)

- 議題1. ブラジル・パラナ連邦工科大学(UTFPR)との学術交流協定の締結について
2. ブラジル・サンパウロ州工学研究所(IPT)との学術交流協定の締結について
3. 特別研究学生(外国人留学生)の指導教員変更について
4. 私費外国人留学生支援奨学金支給要項の一部改正(案)について
5. 派遣留学・語学研修支援制度実施要項について
報告1.トビタテ！ 留学 JAPAN 第2期生募集について
2. フランス・トロワ工科大学 ルロンデル教授講演会について

第7回 9月25日(木)

- 議題1. 韓国・江原大学校との学術交流協定の締結について
2. 大使館推薦による国費外国人留学生の受入れ内諾について
3. 室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金受給者の選考について
報告1. WWU 研修について
2. RMIT 語学研修について
3. 室蘭工業大学佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞の募集について
4. 海外留学支援制度(協定派遣, 協定受入)の募集について

第8回 11月6日(木)(持ち回り)

- 議題1. 研究生(外国人留学生)の選考について

第9回 12月3日(水)

- 議題1. ドイツ・ロストック大学情報電気工学部との学術交流協定の更新について
2. 韓国・韓国海洋大学校との学術交流協定の更新について
3. 平成 27 年度国内採用による国費外国人留学生(研究留学生)被推薦者の選考について
報告1. 平成26年10月留学生受入状況について
2. 日本学生支援機構海外留学支援制度申請について
3. 国際交流関係各種事業の公募について
4. 語学研修派遣及び RMIT 日本語研修受入れについて
5. ブラジル・パラナ連邦工科大学, サンパウロ州工学研究所(IPT)訪問 について
6. 国際交流関連行事について

第10回 2月9日(月)

- 議題1. 研究生(外国人留学生)の選考について
2. 特別研究学生(外国人留学生)の受入れについて
3. 特別聴講学生(外国人留学生)の受入れについて
4. 室蘭工業大学短期留学生(受入れ)支援奨学金受給者の選考について
5. タイ・泰日工業大学との学術交流協定の更新について
6. 大学推薦による国費外国人留学生(研究留学生)の選考について
7. 特別研究学生(外国人留学生)の研究期間延長について
報告1. 民間団体等からの奨学金受給者の選考結果について
2. 室蘭工業大学佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞選考結果について
3. 日本学生支援機構海外留学支援制度(協定派遣・協定受入)申請の採否結果について
4. 官民協働海外留学支援プロジェクト「トビタテ!留学 JAPAN」日本代表プログラム平成27年度後期(第3期)募集について
5. 平成 26 年度留学生交流会について

第11回 3月4日(水)(持ち回り)

- 議題1. 室蘭工業大学研究推進経費(外国人客員研究員招へい)受給者の選考について

第12回 3月24日(火)(持ち回り)

議題1. タイ・チェンマイ大学との学術交流協定の更新について

5.2 国際交流センター教職員打合せ会議

原則として、毎週月曜日に、センター教職員と連絡調整を兼ねた打合せ会議を開催している。

5.3 室蘭市国際交流推進協議会総会

室蘭市では、国際化時代に対応した地域づくりを進めるため、全市的視点から国際交流を推進することを目的とする、室蘭市国際交流推進協議会を組織している。本学は会員として参加するとともに、会長職に佐藤一彦学長が、幹事職に加賀屋誠一国際交流センター長が就任している。

開催日：5月20日(火)、場所：室蘭市中小企業センター 大会議室

出席：佐藤、加賀屋

主催：室蘭市国際交流推進協議会

構成：室蘭工業大学、室蘭国際交流センター、一般財団法人 室蘭市体育協会、室蘭商工会議所、室蘭文化連盟、登別室蘭青年会議所、胆振国際理解教育研究会、室蘭ロータリークラブ、室蘭ライオンズクラブ、室蘭市女性団体連絡協議会、国際ソロプチミスト室蘭、一般財団法人 室蘭ルネッサンス、ノックスビルの会、日照市と友好の会、その他多数の団体・機関

議題：1. 平成25年度事業報告について
2. 平成25年度収支決算報告について
3. 平成25年度監査報告について
4. 平成26年度事業計画(案)について
5. 平成26年度収支予算(案)について

5.4 北海道・中国交流推進連携会議

開催日：6月6日(金)、場所：北海道庁別館11階 第4研修室

出席：武井

主催：北海道・中国交流推進連携会議

議事：1. 各委員から
2. 道、市町村が実施する中国との交流事業について

5.5 マレーシア日本高等教育プログラム(MJHEP)大学説明会他

開催日：6月22日(日)～24日(火)

場所：MJII=MARA Japan Industrial Institute, The Royal Chulan Hotel Kuala Lumpur (マレーシア、クアラルンプール)

出席：植杉(しくみ情報系領域)、武川

主催：YPM(マラ教育財団)

内容：1. 大学説明会
2. MJHEP 合同運営委員会

その他

MJHEP 授業見学会(場所：MJII)

進学説明会(場所：帝京マレーシア日本語学院)

5.6 室蘭工業大学大学院・学部進学説明会

開催日：7月10日(木)、場所：フジ国際語学院新宿校

出席：武井、武川

開催日：7月10日(木)、場所：アジア学生文化会館

出席：武井、武川

開催日：7月11日(金)、場所：千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校

出席：山路、武井、武川

5.7 外国人学生のための進学説明会

開催日: 7月12日(土), 場所: サンシャインシティ文化会館 展示ホールD

出席: 山路, 武井, 武川

主催: 独立行政法人日本学生支援機構

開催日: 7月13日(日), 場所: グランキューブ大阪 イベントホール

出席: 山路, 武川, 遠藤

主催: 独立行政法人日本学生支援機構

5.8 平成26年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生担当課長等合同会議

開催日: 11月7日(金), 場所: チサンホテル&コンファレンスセンター新潟

出席: 加賀屋, 武井

主催: 新潟大学(当番校)

- ・文部科学省所管事項説明
- ・独立行政法人日本学生支援機構事業説明
- ・公益財団法人日本国際教育支援協会事業説明
- ・講演

「留学生交流推進を通しての大学変革」

古城 紀雄(大阪大学 名誉教授)

- ・協議事項1. 学生の海外留学に係るラーニング・アグリーメントの整備状況について
- 2. 留学生獲得方策と海外拠点の活用事例について

5.9 平成26年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会

開催日: 12月11日(木)~12日(金), 場所: ホテルニュー長崎, 長崎大学 文教スカイホール

出席: 加賀屋, 武井

主催: 長崎大学(当番校)

テーマ: グローカリゼーションの推進に向けて

【1日目】

基調講演

「空飛ぶ怪鳥(?)の熱き想いー医療ビジネスと国際展開ー」

松本 謙一(サクラグローバルホールディングス株式会社 代表取締役会長 一般社団法人 日本医療機器工業会 理事長)

文部科学省からの施策説明

「教育分野における国際戦略について」

今里 譲(文部科学省 大臣官房 国際課長)

「グローバル人材育成と大学の国際化関係施策について」

松本 英登(文部科学省 高等教育局 高等教育企画課 国際企画室長)

「科学技術力の強化と大学の国際化」

坂口 昭一郎(文部科学省 科学技術・学術政策局 科学技術・学術戦略官(国際担当))

【2日目】

講演

「九州グローバル産業人材協議会の取組み」

松谷 昭一(経済産業省 九州経済産業局 国際部 投資交流促進課長)

「県内企業の国際展開と現状と課題」

山下 淳司(十八銀行 ソリューション推進部 業務役(アジアデスク担当))

長崎大学の取組

「福島原発事故と長崎大学の対応: クライシスからポストクライシスにおける大学人の役割」

山下 俊一(長崎大学 国際担当理事・副学長)

5.10 北海道留学生交流推進協議会総会

開催日：2月2日(月)， 場所：北海道大学 国際本部 大講義室

出席：武井

主催：北海道留学生交流推進協議会

講演「留学生支援事業について」

(文部科学省高等教育局 学生・留学生課学生交流室 国費留学生係長 木谷 慎一)

報告1. 新規参加団体について

2. 各団体からの報告

(1) 札幌商工会議所 (国際・観光部 国際交流・観光課長 計良 建)

(2) 札幌英語医療通訳グループ (代表 寺尾 恵)

3. 北海道内における留学生受入等の現状について

(北海道大学 国際本部 国際支援課 課長補佐 中谷 慎志)

4. 事例紹介

留学生へのこころの問題“気付いて、つなげる”

(北海道大学 国際本部 国際オフィサー 石井 治恵)

5.11 平成26年度室蘭工業大学留学生交流推進懇談会

本学の留学生は、市内外の国際交流推進関係諸団体から種々の支援を受けており、これら諸団体に対し本学の留学生に対する取り組み状況等を説明し、意見交換を通して理解を得ると共に、今後の留学生受入れ及び学生生活に係るなお一層の支援を仰ぎ、留学生交流事業の円滑な推進を図ることを目的に懇談会を開催した。

開催日：3月2日(月)， 場所：蓬峯殿

主催：室蘭工業大学

出席団体：室蘭国際交流センター、室蘭ロータリークラブ、室蘭北ロータリークラブ、登別ロータリークラブ、一般財団法人 室蘭ルネッサンス、北海道 内モンゴル友好協会、登別室蘭青年会議所、国際ソロプチミスト室蘭、室蘭ユネスコ協会、室蘭市女性団体連絡協議会、NPO法人 羅針盤、室蘭市民観光ボランティアガイド協議会、日中友好協会室蘭支部、室蘭民報社

大学からの説明

・国の留学生政策の現状と展望について

・室蘭工業大学の留学生受入れ状況及び交流状況について

意見交換

・ホームステイの受入先確保について

・留学生と地域の交流等にかかる各支援団体からの要望について

5.12 平成26年度国立大学法人国際協力関係センター長等会議

開催日：3月6日(金)， 場所：文部科学省 講堂

出席：武井

主催：文部科学省

議事1. 「国際協力に係る最近の動向及び大学等の課題」(文部科学省)

2. JICA 事業の最新状況

(1) 「JICA事業の最新状況(大学との連携について)」(JICA国内事業部)

(2) 「JICAの高等教育セクター支援概要」(JICA人間開発部)

3. 大学における国際協力に係る問題点及び解決策

(1) アンケート結果概要 (文部科学省)

(2) 「国際協力の取り組みと帯広ーJICA協力隊連携事業」(帯広畜産大学)

(3) 「山口大学における国際協力に関する取り組み事例」(山口大学)

(4) 「名古屋大学における国際協力について」(名古屋大学)

(5) 「九州大学の国際協力事業の紹介」(九州大学)

(6) 全体意見交換

4. その他

「日本語パートナーズ派遣事業について」(国際交流基金)

6. 国際学術交流

6.1 国際学術交流協定

本学は、教育研究活動の国際化を進めるために、海外の大学、研究機関と学術交流協定を締結し、交流の促進に努めている。2014 年度末時点で 40 大学・機関と協定を締結し、研究交流ならびに学生交流を推進している。

国別では中国 8 大学、韓国 8 大学・機関、タイ 3 大学、ロシア 3 大学・機関、ドイツ 4 大学、フィンランド 2 大学、ブラジル 1 大学・1 機関、アメリカ、イギリス、オーストラリア、オーストリア、ハンガリー、ポーランド、ウクライナ、台湾、ベトナム、インドネシアが各 1 大学である。

2014 年度は、韓国の東義大学校、江原大学校、ブラジルのサンパウロ州工学研究所 (IPT)、パラナ連邦工科大学との交流協定を締結した。また、安東大学校、忠南大学校、韓国海洋大学校、AGH 科学技術大学、ロストック大学情報電気工学部、ヨッヘ物理技術研究所との交流協定の更新が行われた。

【大学間学術交流協定】

以下のとおり、2014 年度末において国際学術交流協定は 36 大学・4 機関である。

(注)担当教員名は上段より連絡窓口 1, 2, 3 の順に記載

	締結大学名	国名	締結年月日	担当教員名
1	河南理工大学	中国	1988 年 11 月 11 日	教授 板倉 賢一 教授 岩佐 達郎
2	大連交通大学	中国	1996 年 10 月 1 日	教授 齋藤 務 教授 平井 伸治
3	ロイヤルメルボルン工科大学	オーストラリア	1999 年 3 月 26 日	准教授 門澤 健也 准教授 山路奈保子
4	ウェスタンワシントン大学	アメリカ	2000 年 10 月 27 日	准教授 ジョンソン マイケル 准教授 ゲイナー ブライアン 准教授 山路奈保子
5	アアルト大学電気工学部	フィンランド	2001 年 3 月 15 日	教授 鈴木 幸司 教授 濱 幸雄
6	北京科技大学	中国	2004 年 2 月 2 日	教授 濱 幸雄 教授 板倉 賢一 助教 倉重健太郎
7	ロストック大学情報電気工学部	ドイツ	2004 年 2 月 20 日	准教授 川口 秀樹 教授 クラウゼ小野 マルギット
8	忠南大学校	韓国	2004 年 4 月 20 日	教授 濱 幸雄 教授 鈴木 幸司
9	安東大学校	韓国	2004 年 6 月 8 日	教授 藤木 裕行 教授 河合 秀樹
10	釜慶大学校工科大学	韓国	2004 年 9 月 1 日	教授 中野 博人 講師 長船 康裕
11	チェンマイ大学	タイ	2005 年 4 月 19 日	教授 風間 俊治 助教 関 千草
12	キングモンクット工科大学ラカバン	タイ	2005 年 4 月 20 日	教授 相津 佳永 教授 大坂谷吉行 准教授 吉田 英樹

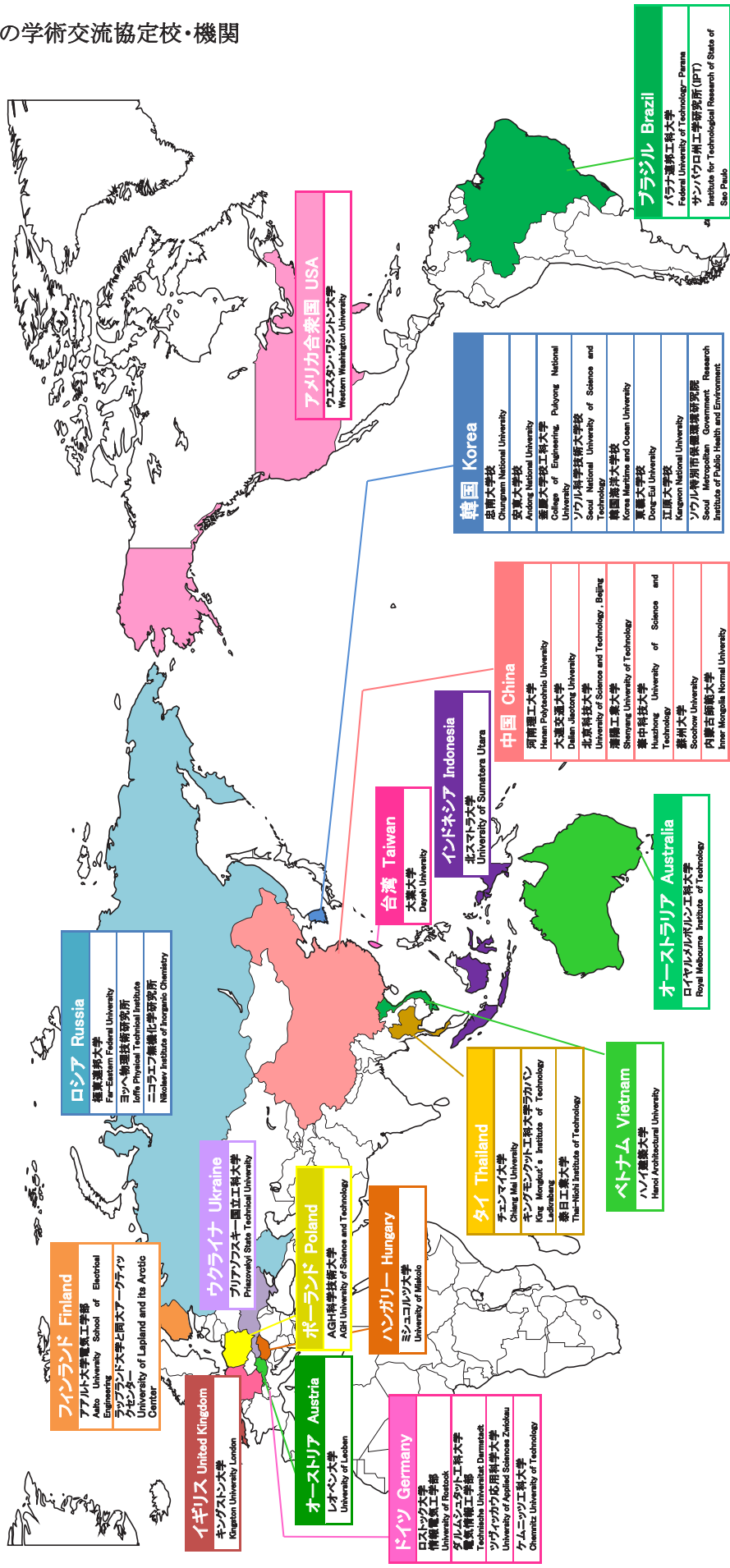
13	ニコラエフ無機化学研究所	ロシア	2005年5月30日	教授 平井 伸治 助教 葛谷 俊康
14	レオベン大学	オーストリア	2006年10月10日	教授 佐藤 孝紀 准教授 武田 圭生 講師 松本 大樹
15	ミシュコルツ大学	ハンガリー	2006年11月13日	教授 佐藤 孝紀 准教授 武田 圭生 講師 松本 大樹
16	極東連邦大学	ロシア	2007年2月19日	教授 板倉 賢一 教授 濱 幸雄
17	ハノイ建築大学	ベトナム	2007年3月27日	教授 木幡 行宏 准教授 山田 深
18	ソウル科学技術大学校	韓国	2007年7月25日	教授 張 俗喆 准教授 岸本 弘立
19	ダルムシュタット工科大学 電気情報工学部	ドイツ	2007年11月9日	准教授 川口 秀樹 准教授 渡邊 浩太
20	瀋陽工業大学	中国	2007年11月9日	講師 真境名達哉 准教授 花島 直彦
21	華中科技大学	中国	2007年11月12日	教授 清水 一道
22	蘇州大学	中国	2007年11月26日	教授 竹ヶ原裕元 准教授 渡邊 真也
23	内蒙古師範大学	中国	2008年6月2日	教授 岩佐 達郎 准教授 加野 裕
24	韓国海洋大学校	韓国	2009年1月19日	教授 木村 克俊 准教授 吉田 英樹
25	AGH科学技術大学	ポーランド	2009年8月27日	准教授 須藤 秀紹 教授 板倉 賢一
26	泰日工業大学	タイ	2010年4月1日	教授 塩谷 浩之 教授 藤木 裕行
27	プリアゾフスキー国立工科大学	ウクライナ	2010年11月16日	教授 清水 一道 准教授 吉田 英樹
28	大葉大学	台湾	2010年12月1日	准教授 山路奈保子 准教授 門澤健也
29	ヨッヘ物理技術研究所	ロシア	2011年7月12日	教授 平井 伸治 教授 関根ちひろ 助教 葛谷 俊博
30	ツヴィッカウ応用科学大学	ドイツ	2012年6月8日	教授 クラウゼ小野 マルギット 教授 相津 佳永
31	ケムニッツ工科大学	ドイツ	2012年9月20日	教授 クラウゼ小野 マルギット 准教授 須藤 秀紹 教授 佐賀 聡人
32	ソウル特別市保健環境 研究院	韓国	2012年9月20日	教授 張 俗喆 教授 岩佐 達郎 助教 関 千草
33	北スマトラ大学	インドネシア	2013年2月15日	教授 河合 秀樹 教授 大平 勇一
34	曲阜師範大学	中国	2013年4月1日	教授 齋藤 務 准教授 佐藤 和彦

35	キングストン大学	イギリス	2013年10月23日	准教授 須藤 秀紹 教授 板倉 賢一 教授 齋藤 務
36	ラップランド大学と同大アーク ティックセンター	フィンランド	2014年3月3日	准教授 清末 愛砂 准教授 永井 真也
37	東義大学校	韓国	2014年6月23日	准教授 朴 峻秀 教授 香山 晃
38	サンパウロ州工学研究所 (IPT)	ブラジル	2014年9月12日	教授 清水 一道 准教授 境 昌宏
39	江原大学校	韓国	2014年10月3日	教授 佐伯 功 准教授 岸本 弘立
40	パラナ連邦工科大学	ブラジル	2014年10月7日	教授 清水 一道 准教授 有村 幹治

【三者間学術交流協定】

締結大学名	国名	締結年月日	担当教員名
ニコラエフ無機化学研究所	ロシア	2008年11月18日	教授 平井 伸治 助教 葛谷 俊康
独立行政法人産業技術総合研究所	日本		

図1 本学の学術交流協定校・機関



7. 外国人留学生

7.1 留学生数

本学は、1979年から外国人留学生を受入れており、留学生数は2003年の60名をピークに、2006年には45名まで減少したが、国際交流センター設置後は、留学生数も大幅に増加し、2009年は初めて100人に到達し、2015年は135名を受入れるに至った。

これまでの留学生受入れの推移を表1に、留学生数(学科別・学年別)を表2に、また、留学生数(国籍別・身分別)を表3に示す。

なお、本活動報告書は2014年度版であるが、10月入学者がいることから、調査・統計の関係上、2014年5月1日ではなく、2015年5月1日の数字を計上した。

7.2 留学生数の推移に関する考察と展望

表1に見るように、1979年から1986年までは政府派遣留学生が大半を占めており、これは国交を回復した直後の中国からの留学生がほとんどだった。

1988年からは、当時の中曽根首相のいわゆる「留学生10万人計画」を受けて、国費留学生の数が増加していく。また同年から、マレーシア政府派遣留学生の受入れも始まり、留学生数は徐々に増加していった。さらに1993年から2003年ごろまでは国費留学生が安定的に配分され、2003年には本学の留学生受入れが始まってから最大の60人に達した。

2007年に国際交流センターが設置されてからは、留学生獲得のため国内・国外での広報活動に努力し、さらに国費や外国政府派遣のみに頼らない本学独自の私費留学生に対する奨学金制度を創設するなどの措置をとったため、2008年からは増加に転じ、2009年には、2006年に一旦底を打った45人の2倍超である100人に到達した。

このことには上記以外に、次の3つの理由も大きいと思われる。

- ① 学術交流協定校からの短期留学生が増加したこと。
- ② 上記の短期留学生も含めて、在学する留学生に対する国際交流センターや本学全体の支援が、留学生に好感を持って理解され、それがそれぞれの国の留学志願者や国内の高専からの編入学希望者に伝わって、本学を志望する学生が増えたこと。
- ③ 短期留学生が本学で半年から1年学ぶ間に、本学や室蘭を気に入る、信頼できる指導教員も見つけて、その後修士課程や博士課程に再度留学してくるケースが出てきたこと。

今後の展望としては、いわゆる「留学生30万人計画」もあり、本学としても現在の100人超から、150人、さらには200人以上を目標として留学生の増加を図っていくことが求められる。

しかしながら、前述したように2006年の留学生数45人から、国際交流センター設置後に2年をかけて100人まで増やしたときには、宿舍の確保が最重要かつ緊急の課題となり、次のような措置でこれに対応した経緯がある。

- ① 民間アパートを大学が借り上げて、既設の留学生宿舍と同じ家賃で留学生を居住させた。
- ② 職員宿舍の一部を留学生用に転用した。
- ③ 室蘭市営アパートの一部を、本学が入退去を管理する留学生専用宿舍として確保した。
- ④ 明德寮に留学生用の部屋を確保した。

留学生数の拡大には、奨学金及び宿舍の確保が最大の課題である。

表1 留学生数(年度別)集計(各年5月1日現在)

	工学部			博士前期課程			博士後期課程			研究生等			小計			合計
	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	
1979	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	2
1980	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4	0	4
1981	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5
1982	0	6	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	7	0	8
1983	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	8	0	9
1984	0	4	0	1	0	1	0	0	0	0	3	0	1	7	1	9
1985	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	4	0	0	5	3	8
1986	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	3	0	2	4	1	7
1987	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	1	1	3	1	2	6
1988	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5	0	1	10	0	1	11
1989	0	2	0	11	0	0	0	0	0	1	3	0	12	5	0	17
1990	0	4	0	14	0	0	2	0	0	3	2	3	19	6	3	28
1991	0	5	0	11	0	1	5	0	0	1	0	3	17	5	4	26
1992	0	5	0	8	2	5	9	0	4	1	0	2	18	7	11	36
1993	0	3	0	7	5	9	11	0	5	5	0	0	23	8	14	45
1994	0	2	1	12	4	8	12	0	6	3	0	1	27	6	16	49
1995	0	3	2	8	1	8	14	0	5	3	0	1	25	4	16	45
1996	0	5	5	5	1	5	14	0	4	9	0	4	28	6	18	52
1997	0	11	5	12	0	3	15	0	2	0	0	4	27	11	14	52
1998	0	14	4	12	0	3	11	0	4	2	0	4	25	14	15	54
1999	0	14	2	9	0	2	13	0	6	3	0	4	25	14	14	53
2000	0	13	2	10	1	7	12	0	3	3	0	3	25	14	15	54
2001	0	12	3	5	1	11	18	0	3	1	0	1	24	13	18	55
2002	1	10	3	2	0	10	14	1	8	1	0	2	18	11	23	52
2003	1	9	7	2	0	13	17	0	7	0	0	4	20	9	31	60
2004	0	9	5	2	0	17	12	0	7	0	0	5	14	9	34	57
2005	0	12	7	2	1	14	9	0	5	0	0	2	11	13	28	52
2006	0	13	9	2	1	10	5	0	4	0	0	1	7	14	24	45
2007	1	16	8	1	0	6	4	0	5	1	0	5	7	16	24	47
2008	1	25	10	1	0	9	3	2	5	0	0	18	5	27	42	74
2009	0	29	11	1	1	19	3	3	10	0	1	22	4	34	62	100
2010	0	34	12	0	1	20	4	3	16	0	0	18	4	38	66	108
2011	1	34	11	1	0	12	2	3	23	0	0	19	4	37	65	106
2012	1	24	15	2	1	17	2	1	21	0	0	16	5	26	69	100
2013	0	29	18	2	1	21	2	0	22	0	0	13	4	30	74	108
2014	1	26	34	2	0	20	4	0	24	0	0	12	7	26	90	123
2015	0	17	42	6	0	25	6	0	24	0	0	15	12	17	106	135

グラフ 1 留学生数(年度別)集計(各年5月1日現在)

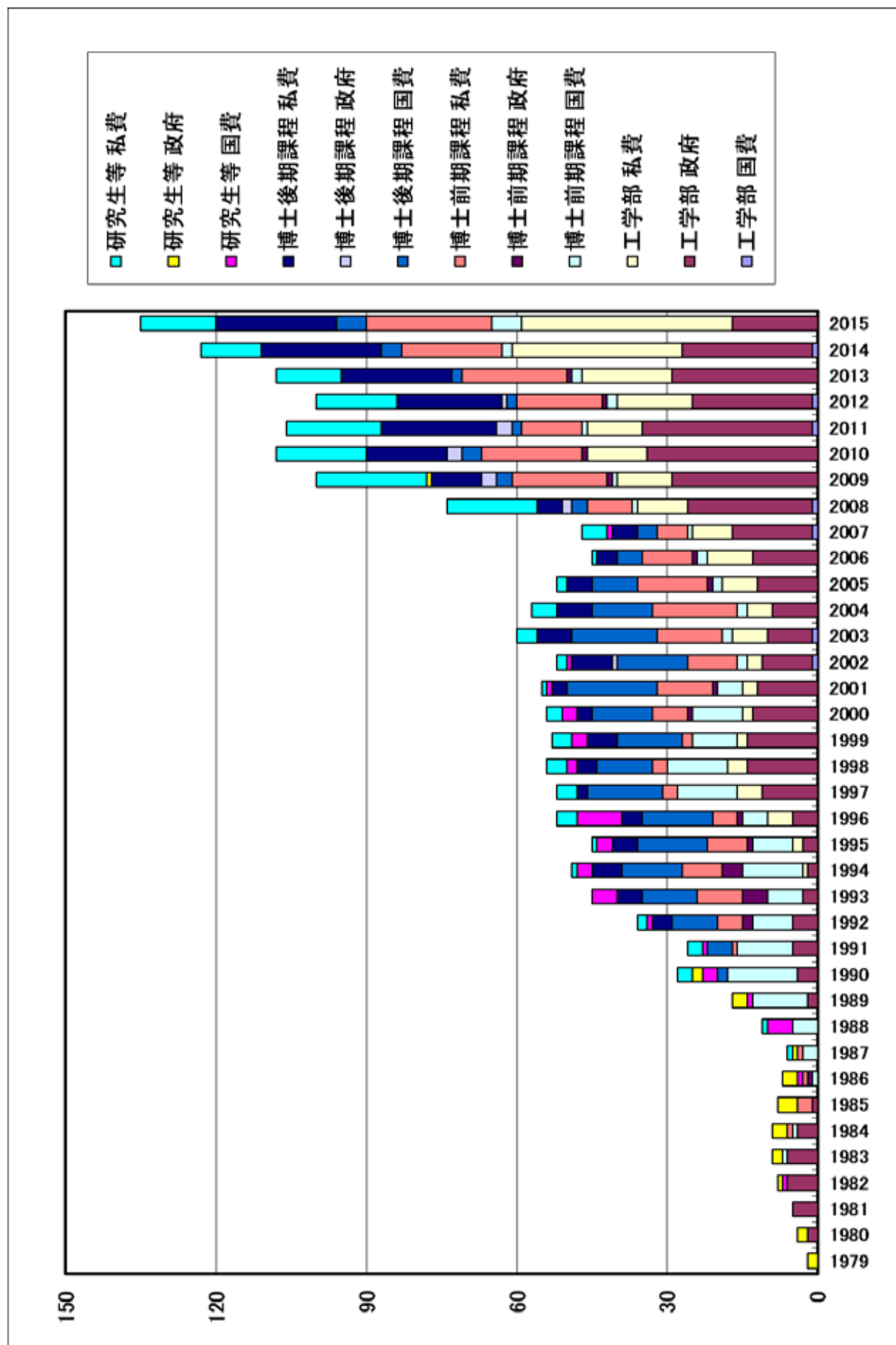


表2 留学生数(学科・学年別)集計(2015年5月1日現在)

【学部】

学 科 名	1 年	2 年	3 年	4 年	合 計
建築社会基盤系学科	5	2	1	2	10
機械航空創造系学科	4	3	7	11	25
応用理化学系学科	0	5	3	1	9
情報電子工学系学科	0	4	5	6	15
合 計	9	14	16	20	59

【博士前期課程】

専 攻 名	1年	2年	合 計
環境創生工学系専攻	4	4	8
生産システム工学系専攻	7	5	12
情報電子工学系専攻	8	3	11
合 計	19	12	31

【その他】

研究生	1
科目等履修生	0
特別研究学生	11
特別聴講学生	3
合 計	15

【博士後期課程】

専攻名	1年	2年	3年	合計
建設工学専攻	0	0	1	1
生産情報システム工学専攻	0	0	0	0
物質工学専攻	0	0	1	1
創成機能科学専攻	0	0	1	1
建設環境工学専攻	0	0	1	1
生産情報システム工学専攻	0	1	3	4
航空宇宙システム工学専攻	0	0	0	0
物質工学専攻	0	1	0	1
創成機能工学専攻	0	3	0	3
工学専攻先端環境創生工学コース	3	2	0	5
工学専攻先端情報電子工学コース	5	3	0	8
工学専攻先端環境創生工学コース	5	0	0	5
合 計	13	10	7	30

表3 留学生数(国・身分別)集計(2015年5月1日現在)

国名	学部			博士前期課程			博士後期課程			研究生等			合計		
	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費
中国	0	0	24	1	0	15	5	0	15	0	0	8	6	0	62
マレーシア	0	17	12	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	15	16
タイ	0	0	0	2	0	1	0	0	2	0	0	5	2	0	8
韓国	0	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	1	0	0	7
ベトナム	0	0	0	2	0	2	1	0	1	0	0	0	3	0	3
インドネシア	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
ラオス	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
ネパール	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
インド	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
ドイツ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
ウズベキスタン	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ポーランド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
合計	0	17	42	6	0	25	6	0	24	0	0	15	12	17	106

注1 博士前期課程及び学部私費留学生には MJHEP 学生 6 名を含む。

7.3 奨学金

私費外国人留学生の奨学金受給状況は表 4 のとおりであり、私費留学生の 65.6%が奨学金を受給している。

表 4 各種奨学金の受給(身分別)状況(2014年10月1日現在)

奨学金名	学部 (34)	博士前期課程 (20)	博士後期課程 (22)	研究生 (6)	特別研究学生 (9)	特別聴講学生 (2)	科目等履修生 (0)	合計 93
室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金 (月額 30,000 円)	6	11	9	0	0	0	0	26
日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費 (大学院:月額 65,000 円, 学部:月額 48,000 円)	6	8	4	0	0	0	0	18
日本国際教育支援協会一般奨学金 (月額 30,000 円)	0	1	1	0	0	0	0	2
北海道外国人留学生国際交流支援事業助成金 (月額 20,000 円)	0	2	0	0	0	0	0	2
財団法人日揮・実吉奨学会奨学金 (年額 250,000 円)	1	0	0	1	0	0	0	2
財団法人ロータリー米山記念奨学会奨学金 (月額 140,000 円)	1	0	0	0	0	0	0	1
共立国際交流奨学財団外国人留学生奨学金 (月額 100,000 円)	1	0	0	0	0	0	0	1
財団法人平和中島財団奨学金 (月額 120,000 円)	0	1	0	0	0	0	0	1
本庄国際奨学財団外国人留学生奨学金 (月額 200,000 円)	0	0	1	0	0	0	0	1
マレーシア JAD プログラム (月額 132,250 円)	3	0	0	0	0	0	0	3
合 計	18	23	15	1	0	0	0	57

注 1 実受給者数は、54 名である。

注 2 上段()は、私費外国人留学生数である。

注 3 室蘭工業大学短期留学生(受入れ)支援奨学金の受給者数は、9 名(支給期間 平成 26 年 4 月から 9 月、月額 50,000 円)であった。

7.4 宿舎

研究員宿舎

国際交流会館(研究員宿舎) : シングル:6室, ツイン:1室

留学生宿舎

- (1) 国際交流会館(留学生宿舎1) : 個室, 12室 (入居期間1年)
- (2) 留学生アパート(留学生宿舎2) : 2名入居, 12室 (入居期間1年)
- (3) 明德寮 : 3名入居, 16室
- (4) エルストファーゼ水元町Ⅱ(留学生宿舎3) : 個室, 19室 (入居期間1年)

※平成26年4月より大学が借り上げた指定宿舎として2年間を目途に運用

この他に室蘭市から、市営アパート25室を留学生用の宿舎として借り受けている。

7.4.1 国際交流会館

2012年度に職員会館と旧留学生宿舎を改修し、2012年11月に外国人研究員宿泊施設と留学生宿舎を併設した国際交流会館を竣工し、運用を開始した。



外観

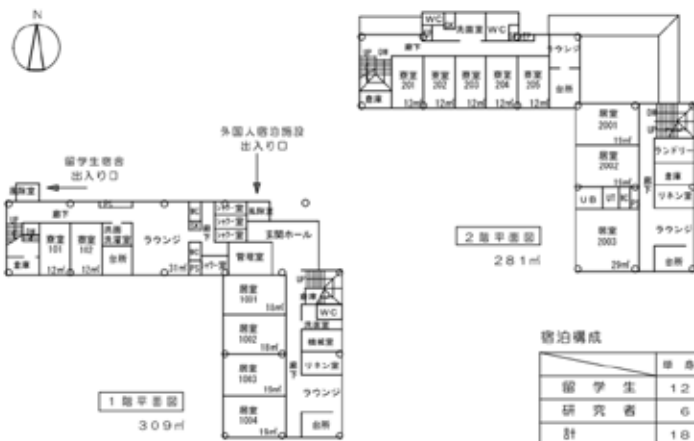


3階平面図

134㎡



オープニングセレモニー



宿泊構成

	単身	夫婦	計
留学生	12	0	12
研究者	6	1	7
計	18	1	19

国際交流会館(研究員宿舎)



玄関ロビー



キッチン(共同)



個室

国際交流会館(留学生宿舎 1)



ラウンジ



キッチン(共同)

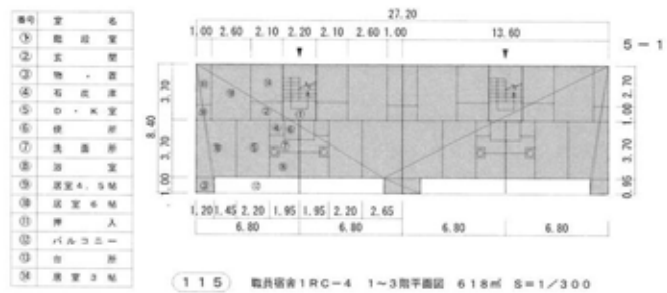


個室

7.4.2 留学生アパート(留学生宿舎 2)



外観



個室

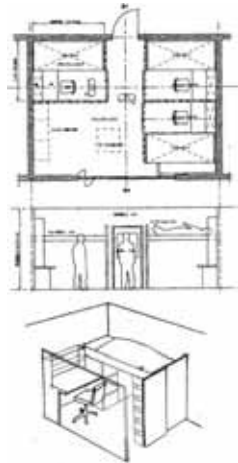
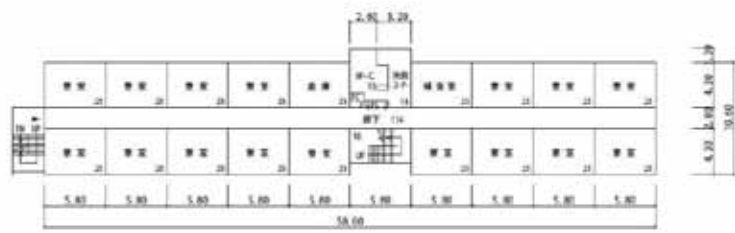


台所

7.4.3 明徳寮 A棟 4階



外観



個室ブース



補食室(各階共同)



浴室(共同)



洗濯室(共同)

7.4.4 エルストファーゼ水元町Ⅱ(留学生宿舎3)



外観



居室

7.4.5 市営アパート(水元団地)



外観



和室



台所

8. 国際交流センター教員が担当した講義

8.1 国際交流センター教員担当講義一覧

国際交流センター教員が2014年度に担当した講義は以下のとおりである。

2014 年度前期 日本語補講 日本語初級 I 日本語初級 II 学部・大学院 日本語科目 日本語 A1 (初級～中級) 日本語 B1 (中級) 日本語 C1 (中級～上級) 日本語 D1 (上級) 学部・大学院 共通科目 海外語学研修, 海外研修 ^{注1}	2014 年度後期 日本語補講 日本語初級 I 日本語初級 II 学部・大学院 日本語科目 日本語 A2 (初級～中級) 日本語 B2 (中級) 日本語 C2 (中級～上級) 日本語 D2 (上級) 学部・大学院 共通科目 異文化交流 B ^{注2}
--	---

注1 海外語学研修, 海外研修については第11章に述べる

注2 異文化交流 A(前期開講)は全学共通教育センター クラウゼ小野 マルギット教員が担当

8.2 日本語補講

国際交流センターでは、日本語学習経験が少ない、または全くない学生を対象に初級レベルの日本語補講(単位とにならない)を開講している。主に本国で大学卒業後来日し博士前期課程への進学をめざす研究生、および本学協定校からの交換留学生が受講する。2014年度に実施した補講は以下のとおり。

(1) 日本語初級 I (前期)

担当: 山路奈保子

受講者数: 7名

時間数: 4.5 時間 (3 回) / 週

使用教材: 『日本語初級 I 大地』

(2) 日本語初級 I (後期)

担当: 山路奈保子

受講者数: 8名

時間数: 4.5 時間 (3 回) / 週

使用教材: 『日本語初級 I 大地』

(3) 日本語初級 II (前期)

担当: 高久裕子 (非常勤講師), 門沢健也

受講者数: 6名

時間数: 4.5 時間 (3回) / 週

使用教材: 『日本語初級 II 大地』

(4) 日本語初級 II (後期)

担当: 高久裕子 (非常勤講師), 門沢健也

受講者数: 11名

時間数: 4.5 時間 (3回) / 週

使用教材: 『日本語初級 II 大地』

8.3 学部・大学院 日本語科目

正規の日本語科目は、前期・後期それぞれA～Dまでの4科目が開講された。これらの科目はレベル別対応であると同時に、口頭コミュニケーション(A1・A2)、科学技術分野における語彙・表現(B1)、プレゼンテーション(B2)、文章表現(C1・C2)と、必要とするスキルに応じて講義を選択できるようになっている。また日本語能力試験対策講座(D1・D2)も開講している。学生は複数の科目を並行して受講することができる。

(1) 日本語 A1(前期)

担当:山路奈保子

時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:初級～初中級

受講者数:13 名

使用教材:『研究留学生の日本語会話』(前半)

授業内容:理工系分野における専門基礎語彙を導入するとともに、ゼミでの質疑応答や学会発表についての相談など、留学生が研究生活で出会う場面でのモデル会話を通じて、実際のコミュニケーション場面において既習の文型・表現がどのように現れるかを提示し、既習表現の運用力の向上を図った。

(2) 日本語 A2(後期)

担当:山路奈保子

時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:初中級

受講者数:16 名

使用教材:『研究留学生の日本語会話』(後半)

授業内容:より発展的な文型・表現とともに、学内外の人々との社会・文化的テーマでの会話における理解力や表現力を高めるための語彙・表現や文化的知識を導入し、さまざまな場面で円滑に会話を展開できるコミュニケーション技能の向上を図った。

(3) 日本語 B1(前期)

担当:山路奈保子

時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中級

受講者数:20 名

授業内容:科学技術分野にかかわるトピックのテレビ番組や雑誌記事等を材料に、大学・大学院で学ぶための基礎的な語彙・表現を理解し適切な文脈で使用できるようになるとともに、抽象的な事柄を説明する文章を組み立てられるようになることをめざす総合的な訓練を行った。

(4) 日本語 B2(後期)

担当:山路奈保子

時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中級

受講者数:16 名

授業内容:日本語によるスピーチ・プレゼンテーションの技能向上をめざし、本を紹介するスピーチを競う「ビブリオバトル」や、学生自身の専門分野を紹介するプレゼンテーション等の活動を通じて、聞きやすい話しかたとわかりやすい構成のしかたの指導を行った。

(5) 日本語 C1(前期)

担当:二通信子(非常勤講師)

時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中級～上級

受講者数:16 名

授業内容:文章作成に必要な日本語の知識を導入するとともに、日本語による文章作成の基礎的な訓練を行った。コースの前半では読み手の立場に立った分かりやすい文章の書き方、後半

では論理的な文章の構造や表現を扱い、アカデミックな文章を書くための基礎的技術の育成を図った。

(6) 日本語 C2(後期)

担当:二通信子(非常勤講師)

時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中級～上級

受講者数:20 名

授業内容:さまざまな作文課題やクラスでのディスカッションを通して、日本語のアカデミック・ライティング能力および論理的思考力の養成を行うとともに、論理的文章の作成に必要な様々な表現を目的に応じて使用できるようになるための訓練を行った。

(7) 日本語 D1(前期)

担当:門沢健也

時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:上級

受講者数:26 名

授業内容:日本語能力試験N1を受験しようという学生のために、問題集を使って受験対策の授業をおこなった。

(8) 日本語 D2(後期)

担当:門沢健也

時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:上級

受講者数:20 名

授業内容:上記、日本語 D1(前期)の継続。受講者の中から日本語能力試験N1の合格者が数名出たのは喜ばしい結果であった。

8.4 学部・大学院共通科目

(1) 異文化交流B

担当:門沢健也

時間数:15 時間

受講者数:20 名

日本語教員の担当科目の中で「異文化交流B」は、カリキュラム上の位置付けは留学生だけのための日本語科目ではないが、留学生と日本人学生が共同して学ぶこと自体を目的とした、特色ある科目である。今年度は留学生 10 人と日本人学生 10 人ずつ、合計 20 人が受講し、受講者が興味のあるテーマを自分たちで自由に設定し、留学生と日本人学生を含む小グループで、そのテーマについて事前に調べ、授業で発表し、その後受講者全体で討論を行うという形式で行った。

受講者が選んだテーマをいくつか挙げると、「各国の宗教に対する考え方の違い」「約束した時間についての考え方」「各国の若者の恋愛観・結婚観・家族観」「各国の食文化」などであった。

9. 室蘭工業大学国際セミナー

同セミナーは、学生と市民の皆さんとともに、世界のさまざまな国や地域について勉強し合い、国際的な視野を拡げることを目的としている。

(1) 第 43 回 室蘭工大国際セミナー

開催日:2014年6月27日

参加人数:約60名(市民,学生,教職員を含む)

テーマ:日本海の物語—西遊記から最近のウクライナ問題まで

講演者:北海道大学 名誉教授 中野 美代子 氏



門澤准教授による講師紹介



中野氏による講演

(2) 第 44 回 室蘭工大国際セミナー

開催日:2014年12月12日

参加人数:約50名(市民,学生,教職員を含む)

テーマ:愛と平和の宗教イスラームを知る

講演者:聖トマス大学 名誉教授 松本 耿郎 氏



松本氏による講演

10. 留学生を対象とした行事, 研修等

10.1 国際交流センター主催行事

(1) 留学生オリエンテーション及び新入学留学生歓迎交流会

開催日:2014年5月10日

参加人数:約150名(チューター, 教職員を含む)

新たな留学生に対して国際交流センター関係教職員の紹介を行い, 日本での生活上の注意事項を説明した。また, 室蘭警察署の方をお招きし, 交通安全について説明していただいた。その後, 在籍中の留学生及びチューターを紹介し, 新入留学生歓迎交流会を行った。



オリエンテーション



新入留学生歓迎交流会, 各国の料理が並ぶ

(2) 室蘭岳登山

開催日:2014年5月18日

参加人数:23名(チューター, 教職員を含む)

室蘭岳(標高911メートル)登山を実施し, 4月に来日した新しい留学生を含む23名が参加した。



登山, 休憩中



室蘭岳山頂にて

(3) 国際交流センター長杯卓球大会

開催日:2014年8月11日

参加人数:30名(チューター, 教職員を含む)

前期の授業終了に合わせ, 国際交流センター長杯卓球大会を実施した。卓球大会の後は, 応援の学生を含む参加者全員で懇親会を行った。



白熱した卓球大会



優勝ペア

(4) 外国人留学生等見学旅行

開催日:2014年9月17～19日

参加人数:44名(留学生家族,教職員を含む)

北海道内の自然や特有の産業施設等の見学を通じて、留学生が北海道の文化、歴史、産業等についての知識や理解を深めることを目的として、今年度は旭川方面へ2泊3日の日程で実施した。

《日程》

9/17	工大～北海道電力株式会社森発電所(工場見学)～大沼公園(昼食:大沼展望閣,自由見学)～はこだてわいん葡萄館(工場見学)～ホテル(夕食)(ロワジュールホテル函館)～函館山(夜景見学)～ホテル(泊)
9/18	ホテル～函館どつく株式会社(工場見学)～函館市国際水産・海洋総合研究センター(施設見学)～金森赤レンガ倉庫,函館ベイエリア地区(自由見学,各自昼食)～函館元町地区町並み<北海道遺産>～ホテル(夕食・泊)(ロワジュールホテル函館)
9/19	ホテル～道南食品株式会社(工場見学)～五稜郭<北海道遺産>～箱館奉行所～五稜郭タワー～ファイブスター函館店(昼食)～昆布館～工大



函館どつく株式会社を見学



北海道電力株式会社森発電所を見学



道南食品株式会社の施設にて

(5) 9月卒業・修了おめでとうランチパーティー

開催日:2014年9月24日

参加人数:26名(チューター, 教職員を含む)

9月に卒業・修了し室蘭を離れる留学生のために, ランチパーティーを開催した。国際交流センター職員お手製の料理を食べながら, 卒業・修了生を中心に思い出話に花を咲かせた。



9月卒業・修了の留学生



加賀屋センター長から記念品を受け取る留学生

(6) 10月新入学留学生歓迎ウェルカムランチ

開催日:2014年10月15日

参加人数:43名(チューター, 教職員を含む)

10月に新しく来日した留学生, インターンシップ研修生が早く本学での生活に馴染めるよう, 歓迎会を開催し, 留学生同士, 国際交流センター教職員との交流を図った。



10月に来日した新入留学生を囲んで

(7) 秋季見学旅行

開催日:2014年10月18日

参加人数:39名(留学生家族, 教職員を含む)

10月以降に入学した留学生に室蘭・登別市内, 洞爺湖町内の観光名所を案内し, 各市町に対する理解を深めさせるとともに, 留学生同士の交流を図る目的で実施した。

《日程》

10/18	工大～登別伊達時代村(見学, 昼食)～洞爺レイクヒルファーム～洞爺火山科学館～昭和新山～有珠山ロープウェイ～祝津公園展望台(室蘭夜景)～工大
-------	--



登別伊達時代村にて



昭和新山にて

(8) 生活安全講習会

開催日:2014年11月12日

留学生参加人数:約15名(チューターを含む)

10月入学の留学生を対象に、交通事故、火災、地震及びインターネット犯罪などの事件・事故の防止のため、生活安全講習会を開催した。5月のオリエンテーションと同様、室蘭警察署の方をお招きし、室蘭工業大学で実際に起こった事故・事件について、また、日本で安全に生活するための対処方法などを説明した。



講習を受ける10月入学の留学生



室蘭警察署からの説明

(9) 野外セミナー(スキー研修)

開催日:2015年1月8日

参加人数:62名(留学生家族、教職員を含む)

場所:サンライバスキー場

東南アジアなど暖かい国の出身者が多い留学生に、スキーという野外活動を通じ、北国の冬の楽しみ方を紹介した。



サンライバスキー場にて

(10) 留学生交流会

開催日:2015年3月2日

参加人数:約200名(留学生家族を含む)

場所:蓬峯殿

日頃留学生がお世話になっている市内等の国際交流推進関係諸団体及び市民等を招待し、交流会を通して留学生との親睦を図るとともに、卒業・修了する留学生を祝福することを目的として開催している。



卒業生代表による挨拶



青山市長, 佐藤学長夫妻と卒業留学生



留学生によるアトラクション披露



青山市長, 学長夫妻, 卒業生・修了生を中心に

10.2 学外の諸行事への留学生派遣, 参加の状況

10.2.1 講師派遣

開催日	主催	行事名	留学生派遣人数
2014年10月22日	高平小学校	国際交流教室	1
2014年10月31日	旭ヶ丘小学校	国際交流教室	1
2014年11月7日	本輪西小学校	国際交流教室	2
2014年11月19日	本室蘭小学校	国際交流教室	1
2014年11月20日	八丁平小学校	国際交流教室	2
2014年11月26日	水元小学校	国際交流教室	2
2014年12月24日	絵鞆小学校	国際交流教室	1
2015年2月3日	天沢小学校	国際交流教室	2
2015年2月20日	桜が丘小学校	国際交流教室	1
2015年2月25日	武揚小学校	国際交流教室	1
2014年7月13日	北海道登別明日中等教育学校	文化際 異文化交流	5
2015年2月20日	北海道登別明日中等教育学校	異文化理解	2
2015年1月20日	登別市	国際理解講座	3
2014年10月18日	室蘭ルネッサンス	懇話会	2
合 計			26



武揚小学校国際理解教室の様子



八丁平小学校3年生からのお手紙



絵鞆小学校4年生からのお手紙

10.2.2 学外支援団体等支援行事

開催日	主催	行事名	留学生 参加人数
2014年4月13日	(社)茶道裏千家淡交会室蘭支部	春の茶会	10
2014年4月26日	室蘭国際交流センター	ウエルカム パーティー	24
2014年5月17日	長沼ロータリークラブ	長沼国際交流フェスティバル	15
2014年6月21日	室蘭市	イルカ・鯨ウォッチング体験乗船	15
2014年7月5日	室蘭東ロータリークラブ	イタンキ浜清掃	10
2014年7月27日	(社)茶道裏千家淡交会室蘭支部	港まつり協賛茶会	8
2014年11月15日	日照市と友好の会	交流会	8
2014年12月18日	室蘭ロータリークラブ	夜間例会	5
2015年2月8日	室蘭国際交流センター	さよなら着物パーティー	27
2015年2月11日	室蘭市国際交流推進協議会	さっぽろ雪まつり見学会	38
合 計			160

(1) 春の茶会

主 催:室蘭国際交流センター

開 催 日:2014年4月13日

参加人数:10名

茶道裏千家淡交会室蘭支部の主催により、日本の伝統文化である茶道を体験できる春の茶会が開催され、留学生9名と外国人研究員1名が参加した。



初めての茶道体験

(2) ウェルカム パーティー

主 催:室蘭国際交流センター

開 催 日:2014年4月26日

参加人数:24名

室蘭国際交流センターの主催により、新たに室蘭市民となった新入学留学生を対象とした交流会が開催された。日本伝統のお寿司調理体験やゲームなどを通じ、市民の皆様との交流を深めた。



青山市長と、手巻き寿司体験をする新入留学生

(3) イルカ・鯨ウォッチング体験乗船

主 催:室蘭市

開 催 日:2014年6月21日

参加人数:15名

室蘭市の招待により、イルカ・鯨ウォッチング体験乗船に参加した。室蘭沖の海洋生物に関するレクチャーの後、船に乗り、海を泳ぐイルカの群れや、外海から見る工場・白鳥大橋の景色を楽しんだ。



海洋生物調査員・笹森さんのレクチャー



ウォッチング船バレーガに乗船



イルカの群れを観察

(4) イタンキ浜清掃

主 催:室蘭東ロータリークラブ

開 催 日:2014年7月5日

参加人数:10名

室蘭東ロータリークラブが行っているイタンキ浜海水浴場の清掃活動に参加した。清掃終了後は、豊浦町でいちご狩りを体験した。



イタンキ浜清掃後、豊浦町でのいちご狩り

(5) さよなら着物パーティー

主 催:室蘭国際交流センター

開 催 日:2015年2月8日

参加人数:27名

毎年、室蘭国際交流センター主催で開催される、卒業して室蘭を離れる留学生とその家族のためのパーティーに、今年は留学生27名が参加した。着物の着付けとファッションショー、記念撮影会が行われた後、市民の皆様の手作りの食事を囲んで交流を深めた。



振り袖, 袴姿の留学生たち, 青山市長と共に



市民の皆様手作りの食事を囲んで

(6) さっぽろ雪まつり見学会

主 催:室蘭市国際交流推進協議会

開 催 日:2015年2月11日

参加人数:38名

室蘭市国際交流推進協議会の主催により、留学生とその家族を対象としたさっぽろ雪まつりへのバスツアーに参加した。雪まつり大通会場の他、北海道大学総合博物館を見学した。



北海道大学総合博物館を見学



大通公園の雪像の前で

10.2.3 その他の行事

開催日	主催	行事名	留学生 参加人数
2014年5月13日	室蘭市観光課	セレブリティ・ミレニウム 歓迎ボランティア	7
2014年6月30日 ～9月15日	室蘭市観光課	サンプリンセス 歓迎ボランティア	15
2014年7月20日	室蘭港鉄人舟漕ぎ大会 実行委員会	室蘭港鉄人舟漕ぎ大会	16
2014年10月11日	菊池杯テニポン大会実行委員会	菊池杯テニポン大会	15
2014年12月30日 ～2015年1月2日	(独法)国立青少年教育振興機構	世界の仲間とゆく年くる年	1
2015年1月～3月	室蘭社会福祉協議会	雪かきレンジャーボランティア	22
2015年1月14日 ～1月24日	NTT室蘭支店/ 北海道内モンゴル友好協会	カレンダーリサイクル市	2
合 計			78



鉄人舟こぎ大会に参加した留学生チーム



菊池杯テニポン大会にて

11. 学術交流協定校との交流

11.1 協定校等への訪問

(1) 韓国 交流協定校2大学

訪問先:東義大学校, 釜慶大学校工科大学

訪問日程:2014年6月22日～25日

訪問者:学長 佐藤 一彦

もの創造系領域 特任教授 香山 晃

もの創造系領域 准教授 朴 峻秀

地域連携推進グループ コーディネーター 松橋 和哉

訪問内容:表敬訪問, 学術交流協定の締結, 大学概要の説明ならびに交流内容の協議,
研究施設の見学, 共同研究打ち合せ

(東義大学校訪問)



表敬訪問



調印式



調印式を終えた両大学の教職員



海洋バイオ産業開発地域センター



電子セラミックスセンター



釜山コンピューター機器収束研究室

(釜慶大学校工科大学訪問)



Yong-Sik Ahn 学部長による施設案内



学部長室にて記念撮影(左より副学部長, 学部長)

(2) ブラジル 交流協定締結大学・研究機関

訪 問 先:パラナ連邦工科大学(UTFPR), サンパウロ州工学研究所(IPT)

訪問日程:2014年10月4日~14日

訪 問 者:学長 佐藤 一彦

理事補・もの創造系領域 教授 清水 一道

くらし環境系領域 准教授 有村 幹治

国際交流センター特定専門職員 内藤 直子

訪問内容:学術交流協定の締結, 大学概要の説明ならびに交流内容の協議,
進学説明会開催, 研究施設の見学, 懇談

(パラナ連邦工科大学訪問)



UTFPR 本部棟



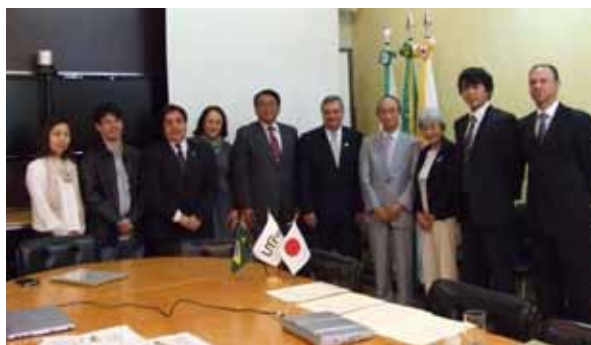
機械工学部研究室紹介



機械工学授業の様子



調印の様子, (左)Cantarelli総長



調印式を終えた両大学の教職員, (右)本学修了生のBorsato准教授



進学説明会, 学生及び教職員約40名が参加

(環境都市クリチバの市内見学・機関訪問)



建築家オスカー・ニーマイヤー博物館



電気自動車充電機



市民大学「環境自由大学」



クリチバ都市計画研究所 (IPPUC)



クリチバ都市公社 (URBS)

(在クリチバ日本国総領事公邸夕食会)

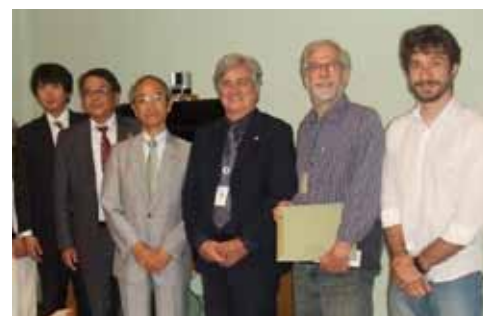


池田総領事の招待により UTFPR 教職員と本学教職員が出席

(サンパウロ州工学研究所)



両機関の代表者による大学概要紹介の様子



(右から 2 番目) 冶金工学 Albertin 博士



材料実験棟（鑄造工場）



熱間圧延実験装置

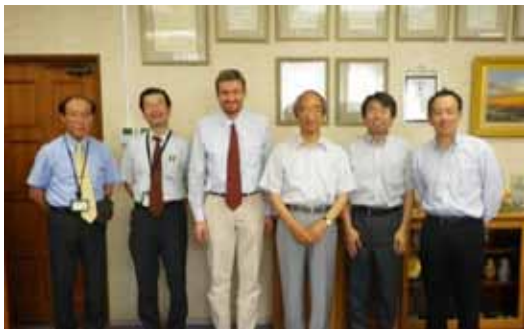
11.2 外国，協定校等からの訪問受け入れ

(1) フランス トロワ工科大学教員の招聘

訪問日程:2014年8月1日

訪問者: Professor Gilles Lérondel

訪問内容:表敬訪問，大学概要紹介・講演会，研究室訪問，ならびに交流内容の協議，市内見学



表敬訪問，(左から3番目)ルロンデル教授



大学概要紹介・講演会



研究室訪問の様子

(2) イギリス ストラスクライド大学

訪問日程:2014年6月3日

訪問者:Professor Black

訪問内容:表敬訪問，研究室訪問，共同研究打ち合せ



(右) ブラック先生

(3) 「JSED2015」への協定大学等からの招聘教員による表敬訪問

訪問日程:2015年3月12日

訪問者:ウクライナ プリアゾフスキー国立工科大学 副学長 Alexandu Cheiliakh

ポーランド AGH科学技術大学 教授 Andrzej Lesniak

イギリス キングストン大学 講師 Norman Cheung

中国 内モンゴ師範大学 教授 Wu Yun

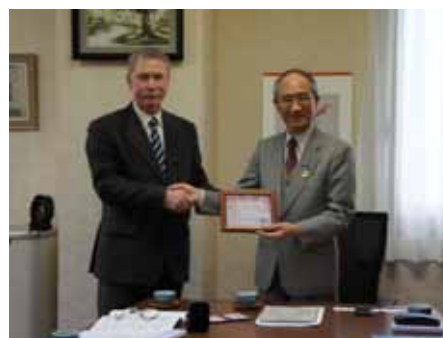
同 准教授 Ai Jun

中国 河南理工大学 大学院生 Li Renzhi

訪問内容:表敬訪問, 大学概要紹介, 環境科学・防災研究センター紹介, JSED 紹介



学長表敬訪問を終えて記念撮影



Cheiliakh 副学長より感謝状とメダルの贈呈

11.3 共同セミナー, 共同事業等の実績について

(1) 韓国・韓国海洋大学校他とのジョイントセミナー「第10回 KMK 国際セミナー」

日時:2014年8月25日

開催地:韓国 釜山

主催:韓国海洋大学校, 九州工業大学, 本学建築社会基盤系学科・建築社会基盤系専攻

本学からの参加者:理事・副学長 加賀屋 誠一, 暮らし環境系領域 木村 克俊 教授,

木幡 行宏 教授, 菅田 紀之 准教授, 有村 幹治 准教授, 大学院生2名の7名

概要:3大学において土木工学に関する教育や研究などの交流を深めるために開催された。

本学より木村教授が水利分野の基調講演, ならびに博士前期課程学生2名がそれぞれ計画分野と構造・地盤分野でプレゼンテーションと質疑応答を行った。



釜山にて, 韓国海洋大学校, 九州工業大学, 本学参加者による記念撮影



セミナー終了後,
韓国焼肉を囲んでの交流

(2) タイ・チェンマイ大学他とのワークショップ「国際デザインワークショップ 2014 イン
北海道(IDW2014 in Hokkaido)」

日 時:2014年10月24日～28日

開催地:洞爺湖

主 催:チェンマイ大学 Khongthat Thongphun 教員, 公立ほこだて未来大学 姜南圭准教授,
本学しくみ情報系領域 須藤秀紹准教授

参加者:チェンマイ大学の学生5名, ほこだて未来大学学生2名, 本学学生7名が参加

(3) 国際共同セミナー「JSED2015」

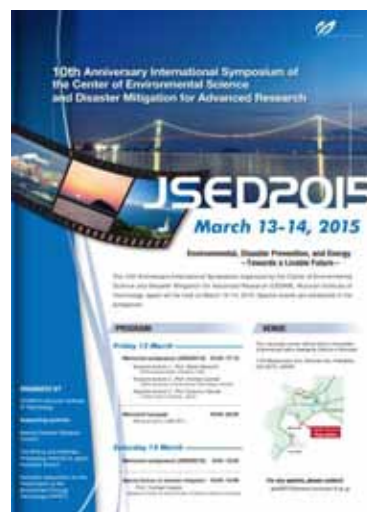
日 時:2015年3月13日～14日

開催地:室蘭工業大学

主 催:本学環境科学・防災研究センター

概 要:環境, 防災, エネルギーをキーワードにした最先端技術に関する基調講演3件, 一般講演5件, 本学研究者による研究報告37件の他, 10周年記念講演会として, 関西大学社会安全研究センターセンター長 河田 恵昭(かわた よしあき)教授による記念講演「災害の多発・激化時代におけるわが国の防災・減災対策」を市民対象として行った。

招聘者:プリアゾフスキー国立工科大学, AGH科学技術大学,
キングストン大学, 内モンゴ師範大学, 河南理工大学の5つの協定校, 及びペンシルベニア州立大学からの招聘研究者計7名



JSED2015 ポスター

12. 学生の海外への派遣

日本学生支援機構の海外留学支援制度（短期派遣）に基づいた学生支援のほか，平成 26 年度から，新たに「室蘭工業大学派遣留学・語学研修支援制度」を設けて，派遣留学及び語学研修に参加する学生の支援を行っている。

12.1 短期留学

- (1) 学生氏名： 沖本 宙恭
所 属： 機械航空創造系学科 3 年
派遣先： レオベン大学(オーストリア)
期 間： 1 年間(2013 年 9 月～2014 年 8 月)
経済支援： 50 周年記念事業起業家意識養成等のための学生の海外研修支援
奨学金(室蘭工業大学奨学金) 月額 5 万円



- (2) 学生氏名： 小山 瑠衣
所 属： 応用理化学系学科 3 年
派遣先： ツヴィッカウ応用科学大学(ドイツ)
期 間： 1 年間(2013 年 9 月～2014 年 8 月)
経済支援： 50 周年記念事業起業家意識養成等のための学生の海外研修支援
奨学金(室蘭工業大学奨学金) 月額 5 万円



- (3) 学生氏名: 増田 信凜
所 属: 機械航空創造系学科 3 年
派遣先: ツヴィッカウ応用科学大学(ドイツ)
期 間: 1 年間(2014 年 4 月～2015 年 3 月)
経済支援: 日本学生支援機構 海外留学支援制度(短期派遣) 月額 8万円



- (4) 学生氏名: 松岡 勇樹
所 属: 機械航空創造系学科 3 年
派遣先: ケムニッツ工科大学(ドイツ)
期 間: 1 年間(2014 年 4 月～2015 年 3 月)
経済支援: 室蘭工業大学派遣留学・語学研修支援制度 月額 8万円

12.2 ロイヤルメルボルン工科大学(RMIT) 語学研修

期間: 2014年8月23日～9月13日

内容: 海外学術交流協定提携校における英語研修, オーストラリア文化体験, 学生交流

奨学金: 平成26年度海外留学支援制度(短期派遣)採択事業

参加者: 9名(男子6名, 女子3名)

1. 釣部 恋菜 建築社会基盤系学科 1年
2. 中野 佑美 建築社会基盤系学科 1年
3. 久保田 洋平 機械航空創造系学科 3年
4. 清水 眞希 機械航空創造系学科 1年
5. 五十嵐 洋介 情報電子工学系学科 2年
6. 小田 雄斗 情報電子工学系学科 2年
7. 近藤 広康 応用理化学系学科 2年
8. 羽田 祐眞 応用理化学系学科 2年
9. 大浦 一馬 応用理化学系学科 1年

引率: 山路 奈保子 ひと文化系領域 准教授,
国際交流センター専任教員
遠藤 仁郎 国際交流センター事務室 スタッフ



修了式後にRMIT学生と記念撮影



TA体験の様子

12.3 ウェスタンワシントン大学(WWU) 英語研修

期間: 2014年8月18日～9月9日

内容: 海外学術交流協定提携校における英語研修ならびにアメリカの文化・社会についてのレクチャー, ボーイング社等シアトル近郊企業ならびにアメリカ国立公園や文化施設の見学, 学生交流

奨学金: 室蘭工業大学派遣留学・語学研修支援制度 10万円

参加者: 8名(男子8名)

1. 中川 雄二 建築社会基盤系専攻 1年
2. 小林 右京 建築社会基盤系学科 2年
3. 長尾 拓矢 機械航空創造系学科 4年
4. 片倉 寛史 機械航空創造系学科 3年
5. 西村 健 機械航空創造系学科 2年
6. 橋本 啓吾 機械航空創造系学科 1年
7. 元氏 一馬 情報電子工学系学科 3年
8. 渡邊 省吾 応用理化学系学科 3年

視察: ゲイナー ブライアン ひと文化系領域 准教授



英語コミュニケーションの授業



プログラム修了後の記念撮影

12.4 ヨーロッパ語学研修

期間： 2015年2月27日～3月15日

内容： 海外学術交流協定提携校ツヴィッカウ応用科学大学・ケムニッツ工科大学との学生交流及び下記の研修

- ①英語の語学研修 ②企業・博物館の見学
- ③ヨーロッパの文化体験(訪問地:ドイツ, チェコ)

奨学金： 室蘭工業大学派遣留学・語学研修支援制度 5万円

参加者： 3名(男子3名)

- 1. 合田 健斗 情報電子工学系学科 1年
- 2. 小谷 真之輔 情報電子工学系学科 1年
- 3. 富岡 瞬 情報電子工学系学科 1年

引率： クラウゼ小野 マルギット ひと文化系領域 教授



市内見学

12.5 台湾・大葉大学短期研修

期間： 2015年3月8日～3月20日

内容： 中国語研修, 大葉大学日本語学科の学生との交流, 日本語学習支援, 台中・台北および近郊の史跡見学

奨学金： 室蘭工業大学派遣留学・語学研修支援制度 4万円

参加者： 3名(男子3名)

- 1. 橋本 将史 応用理化学系学科 1年
- 2. 大浦 一馬 応用理化学系学科 1年
- 3. 名野 晃平 応用理化学系学科 1年



大葉大学の学生と記念撮影

12.5 中国・華中科技大学短期研修

期間： 2015年3月4日～3月13日

内容： 中国語研修，華中科技大学日本語学科の学生との交流，武漢近郊史跡見学

奨学金： 室蘭工業大学派遣留学・語学研修支援制度 4万円

参加者： 5名(男子3名，女子2名)

1. 下村 一朗 建築社会基盤系学科 1年
2. 佐藤 来美 建築社会基盤系学科 1年
3. 坂本 莉子 建築社会基盤系学科 1年
4. 山本 龍弥 機械航空創造系学科 3年
5. 前田 智名 応用理化学系学科 1年

引率： 曲 明 ひと文化系領域 准教授



華中科技大学の学生たちと

12.6 泰日工業大学スプリングプログラム

期間： 2015年3月8日～3月20日

内容： 英語による国際経営の講義，泰日工業大学の学生との交流，タイ国内企業の工場見学

参加者： 1名(女子1名)

1. 国崎 翠 環境創生工学系専攻 1年



泰日工業大学の学生と記念撮影

12.7 佐藤矩康博士記念国際活動奨励賞

賞の由来と趣旨

本奨学賞は、医学博士で博士(工学)である佐藤矩康先生のご寄附によって、2009年に創設されました。本学在学中の学部及び大学院の学生が海外国際会議での論文発表、海外での研究プロジェクト参画、海外インターンシップなど、国際的な場で活動し、成果を上げることがを支援し、奨励することを目的としています。

佐藤矩康先生は昭和2年、北海道富良野町に生まれ、北海道大学医学専門部を卒業後、医師、医学博士として医業に従事される傍ら、多年、刀剣考古学の研究に携わり、平成18年「X線CT法による上古刀のはばき構造の解析」によって室蘭工業大学から博士(工学)の学位(主査 桃野正教授)を授与されました。また長年、私的な奨学財団により学生生徒の就学を支援しておられます。

本奨学賞が、学生の皆さんの国際意識・国際能力の向上に繋がり、ひいては室蘭工業大学の教育研究の活性化にいささかでも寄与することを希望します。

故 佐藤矩康(さとう のりやす)博士 略歴

昭和2年4月 北海道上富良野町生まれ
名寄小学校、名寄中学校を経て、
昭和25年3月 北海道大学医学専門部卒業
昭和25年4月 北海道立札幌医科大学内科学教室入局 医師
以後 日高門別町 町立病院内科医長、南幌町 町立病院院長 等を歴任
昭和34年10月 札幌市白石区にて、眼科医和子夫人と「内科眼科共立診療所」開設
平成12年4月 信佑会吉田記念病院医師、聖愛会発寒中央病院医師
平成23年9月 逝去

本奨励金は、年2回募集し、8名程度に各10万円を授与する。

【2014年度前期受賞者】

PATCHANEE PATITAD	生産情報システム工学専攻2年
小野寺 英之	生産システム工学専攻1年
近藤 賢	航空宇宙システム工学専攻1年
鈴木 祥弘	航空宇宙システム工学専攻1年



【2014年度後期受賞者】

張 紫傑	情報電子工学系専攻1年
金 志元	生産システム工学専攻1年
下村 優樹	情報電子工学系専攻1年
五十嵐 洋輔	情報電子工学系専攻1年



12.8 国際体験報告会・海外インターンシップ説明会

留学経験者と佐藤矩康博士記念国際活動奨励賞の受賞者の報告と海外インターンシップの面白さ、意義と効果を広くPRし、これを実施するIAESTE※(国際学生技術研修協会)の研修生募集試験への応募を勧誘する目的で、キャリアサポートセンターと共同で実施した。

※IAESTE(国際学生技術研修協会)

国際インターンシップを促進する非営利・非政府組織で、世界80カ国に支部(委員会)があり、4,000社を超える企業とのネットワークがある。

【平成26年度前期開催分】

開催日時: 2014年6月5日

場 所: 教育・研究3号館N棟 N103講義室

参加学生数: 約25名

報告者

① 留学経験者報告

長船 和馬(情報電子工学系専攻 2年)

2013年8月～2014年1月

フィンランド・アアルト大学に留学

立桶 薫(航空宇宙システム工学専攻 2年)

2013年4月～2014年3月

ドイツ・ツヴィッカウ応用科学大学に留学

② 佐藤矩康博士記念国際活動奨励賞の受賞者報告

舛澤 千尋

2012年9月～2012年12月

IAESTE 国際インターンシップ(ドイツ)に参加

③ IAESTE 受験体験報告

小野寺 英之(生産システム工学専攻 1年)



熱心に報告に耳を傾ける参加者



ドイツ留学経験者による報告

【平成 26 年度後期開催分】

開催日時: 2014 年 11 月 25 日

場 所: 教育・研究 1 号館 C 棟 C204 講義室

参加学生数: 約 10 名

報告者

① 留学経験者報告

沖本 宙恭(機械航空創造系学科 3 年)

2013 年 9 月～2014 年 8 月

オーストリア・レオベン大学に留学



オーストリア留学経験者の報告

② 佐藤矩康博士記念国際活動奨励賞の受賞者報告

近藤 賢(航空宇宙システム工学専攻 2 年)

2014 年 9 月

中国・上海での国際学会発表

小野寺英之(生産システム工学専攻 1 年)

2014 年 8 月～2014 年 9 月

IAESTE 国際インターンシップ(中国)に参加



国際学会発表経験者の報告

12.9 海外語学研修説明会

海外語学研修説明会は、各語学研修に参加した学生に体験を発表した後に、教員から語学研修の概要を説明し、幅広く語学研修のPRをする目的で実施している。

【平成 26 年度前期開催分】

開催日時： 2014 年 5 月 14 日
場 所： 教育・研究 3 号館N棟 N104 講義室
参加学生数： 約 40 名

報告者

- ① オーストラリア・RMIT スタディーツアー
木村 航平(機械航空創造系学科 2年)
- ② ヨーロッパスタディーツアー
小林 賢哉(情報電子工学系学科 3年)
山上 佳那(機械創造工学系専攻 2年)
- ③ タイ・泰日工業大学サマースクール
石井 臣卓(機械航空創造系学科 2年)



RMIT 研修参加者の報告

【平成 26 年度後期開催分】

開催日時： 2014 年 12 月 2 日
場 所： 教育・研究 1 号館 C 棟 C204 講義室
参加学生数： 約 15 名

報告者

- ① アメリカ・WWU英語研修
長尾 拓也(機械航空創造系学科 4年)
西村 健(機械航空創造系学科 2年)
- ② ヨーロッパスタディーツアー
小林 賢哉(情報電子工学系学科 3年)
- ③ 中国・華中科技大学短期研修
張娟麗(インターンシップ研修生)
趙妍 (インターンシップ研修生)
- ④ 台湾・大葉大学短期研修(説明のみ)



ヨーロッパ研修参加者の報告



中国人学生による華中科技大学紹介

13. 外国人短期研修生・外国人研究員・外国人インターンシップ研修生受入れ

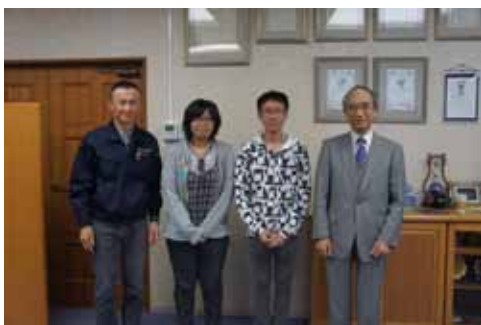
13.1 外国人短期研修生受入れ

(1) 泰日工業大学短期研修生受入

期 間:2014年4月16日～5月24日

内 容:タイ・泰日工業大学の学部学生が本学で約5週間にわたり短期研修を行う。短期研修生は、いくつかの専門科目を受講し、機械航空創造系学科の研究室に配属され、授業以外の学生生活を行う。

参加者:泰日工業大学研修生2名



学長表敬訪問



見学旅行でのニセコそりすべり体験

(2) RMIT 日本語研修生受入

期 間:2014年10月24日～11月4日

内 容:本学の交流協定校であるオーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学(以下 RMIT とする。)とのスタディーツアー及び学生交換に関する協定の合意事項実施のため、研修生を受入れる。研修は、本学での日本語による講義及び本学の学生との交流、北海道の自然や文化施設等の見学により、オーストラリアとは違った文化、歴史等についての知識・理解を深めることを目的とする。

参加者:RMIT 研修生9名, RMIT 引率者1名



白老・ポロコタンでの記念写真



学長表敬訪問

13.2 外国人インターンシップ研修生受入れ

インターンシップ研修生受入れ制度は、外国の大学の正規課程に在籍する外国人学生が、本学において実施する研究、実験、解析、設計、製作等の研修プログラムに参加するものである。平成 26 年度は下記のとおり 14 名のインターンシップ研修生を受け入れた。

氏名	国	大学	受入期間	受入教員
Athawale Madhav Nimish	インド	インド工科大学	2014.5.7 - 2014.7.6	平井 伸治
Jeong SangUn	韓国	清州大学	2014.8.25 - 2014.9.11	濱 幸雄
Kim Sangsup	韓国	清州大学	2014.8.25 - 2014.9.11	濱 幸雄
Shen Huilin	中国	華中科技大学	2014.9.26 - 2014.10.26	山路 奈保子
Zhou Yequiu	中国	華中科技大学	2014.9.26 - 2014.10.26	山路 奈保子
Zhang Juanli	中国	華中科技大学	2014.11.11 - 2014.12.11	清水 一道
Zhao Yan	中国	華中科技大学	2014.11.11 - 2014.12.11	清水 一道
Patrick Heinrich	オーストリア	ウィーン工科大学	2014.11.1 - 2014.12.1	関根 ちひろ
Jujan Chotpong	タイ	チェンマイ大学	2014.11.30 - 2014.12.30	関根 ちひろ
Hong-Min Park	韓国	東義大学校	2015.1.15 - 2015.3.4	香山 晃
Zhang Yan Ting	中国	華中科技大学	2015.3.25 - 2015.4.25	山路 奈保子
Liu Ben	中国	華中科技大学	2015.3.25 - 2015.4.25	山路 奈保子
Keon Dong Yeo	韓国	東義大学校	2015.2.23 - 2015.4.23	香山 晃

13.3 外国人研究員受入れ

平成 24 年度より国際連携による共同研究等を展開することを目的として創設した室蘭工業大学研究推進経費(外国人客員研究員招へい)(平成 26 年度から名称変更。旧名称:重点研究経費(国際連携分))により、平成 26 年度は 4 名の外国人客員研究員を招へいた。また、日本学術振興会外国人特別研究員 1 名、その他 1 名を外国人客員研究員として受け入れた。

氏名	国	大学等	期間	事業名	受入教員
Mohamed Zakaria Abdel Hamid Hassan	エジプト	サウスバレー大学	2013.4.1-2015.3.3	日本学術振興会 外国人特別研究員	濱 幸雄
Wang Yu	中国	大連交通大学	2014.4.1-2014.9.30	重点研究経費 (国際連携分)	有村 幹治
Dai Gang	中国	内モンゴ師範大学	2014.7.19-2014.8.30	重点研究経費 (国際連携分)	岩佐 達郎
Yoon HanKi	韓国	東義大学校	2014.7.28-2014.8.10	重点研究経費 (国際連携分)	香山 晃
Xinba Yaer	中国	内モンゴ工業大学	2015.1.11-2015.3.7	重点研究経費 (国際連携分)	清水 一道
Ahmad MFM Alotaibi	クウェート	クウェート科学研究所	2015.1.7-2015.2.6	日本石油学会産油国 研究者受入事業	神田 康晴

14. 国際交流クラブ

国際交流クラブは、本学の公認課外活動団体(学生サークル)で、1994年に、その当時の留学生(院生)数人が中心となり、自分たちより年若い日本人の学生たちに、親睦と交流を呼びかける形で発足した。

当時は留学生の数がまだ少なく、またほとんどが修士か博士の大学院生、また家族随伴の留学生も多く、講座の研究室を除いては留学生と日本人学生(特に学部生)との接点や知り合う機会がほとんどないのが実情であった。当時の留学生は、せっかく日本に留学したのに日本人学生と交友を持つ機会が少ないことに残念さと危機感を持ち、学内に立って日本人学生にチラシを渡すところから活動を始めたのだった。

それに対して、意識の高い日本人学生たちが積極的に呼応して「国際交流クラブ」が創設され、以来20年以上が経過して留学生の数も出身国も増え、また学部生の留学生も増えたことから、現在は留学生・日本人合わせて部員が80人以上の大きなサークルとなった。

大学祭への参加や、お花見やジンギスカンなど、日本・北海道らしい活動をともにするほか、日常生活の中で留学生と日本人学生の交友・交流が見られるようになったのは、国際交流クラブの大きな功績といえる。また、留学生の母国を支援する教育基金の募金を行ったり、地震のような大きな災害があったときに日本人学生がともに募金活動を行ったりするような、社会性を持つ活動も行っている。

また、国際交流クラブの部員からの海外研修や海外インターンシップへの参加者、海外留学の希望者が確実に増えてきている。

国際交流センターも、国際交流センター専任教員が顧問教員を務めるほか、センターとして国際交流クラブの活動にさまざまな形で支援を行なっている。また国際交流センターが行う行事に国際交流クラブの部員が参加したり協力したり、海外研修などにも応募者を出すなど、国際交流センターと密に関係を保ちつつ、学生側の国際交流活動の窓口として、また主体として大いに活躍している。



新入生歓迎会

15. 広報活動

15.1 国際交流センターホームページ



日本語版トップページ



英語版トップページ

15.2 英文概要, 国際交流センターNews



英文概要



国際交流センターNews 6号

15.3 オリジナルグッズ



Tシャツ (表)



Tシャツ (裏)



フェイスタオル



ステッカー



ティッシュ



バック

15.4 広報活動グッズ



旗



イスカバー

16. 教員の研究活動

加賀屋誠一

国際会議発表論文

Seiichi Kagaya, Tetsuya Wada: Environmental Governance for Sustainable Watershed-Based Management, Proceedings of the 10th World Congress of the RSAI, 20-26, May, 2014, Ayutthaya, Thailand, available on CD-ROM.

論説・寄稿等

- 1) 住民主体で育てる地区防災, リスク対策.com, No. 44, 2014.
- 2) 創発的行動を基本とした地区防災計画, C+Bousai, 地区防災計画学会誌, Vol. 1

講演

- 1) 加賀屋誠一: 防災・減災への的確な対応を考える, 道路防災エキスパート講習会, 2014. 12. 8
- 2) 加賀屋誠一: 入札及び契約のあり方について, 登別市議会研修, 2015. 2. 2
- 3) 加賀屋誠一: 室蘭地域における水素社会実現の可能性, 道新室蘭政経懇話会, 北海道新聞, 2015. 2. 4
- 4) 加賀屋誠一: 交通インフラ整備とまちの創生, 帯広・広尾自動車道開通による広尾町の展望と十勝港の役割, 広尾町商工会経営講習会, 2015. 2. 27

山路奈保子

○論文

- 1) 山路奈保子・因京子・藤木裕行: 日本人大学生の学部後半における文章作成技能獲得の様相—工学系専攻の大学院生による作文自己訂正から—, 専門日本語教育研究 16 号, pp.45-52, 2014

○研究発表 (ポスター発表)

- 1) 山路奈保子・深澤のぞみ・須藤秀紹: パブリックスピーキングにおけるコンテキスト共有—「ビブリオバトル」の導入部の観察から—, 2014年度日本語教育学会春季大会, 2014年06月, 創価大学
- 2) 高木佳奈・山路奈保子: 自律的学習スタイルを獲得する上で学習者が抱える問題—日本語学習者へのインタビュー調査から—, 2014年度日本語教育学会秋季大会, 2014年10月, 富山国際会議場

○その他 (シンポジウムにおける報告)

山路奈保子・大島弥生「ロシア・中国におけるアカデミック・ジャパニーズ支援ニーズ調査結果報告」, 科研費研究プロジェクト「研究成果の日本語による受信発支援を目指したニーズ調査とリソース開発」シンポジウム, 2015年2月8日, 東京海洋大学

○外部資金獲得

- 1) 科学研究費補助金 基盤研究(C) 「研究室コミュニケーションの円滑化をめざす日本語会話教材開発」(研究代表者)
- 2) 科学研究費補助金 基盤研究(B) 「研究成果の日本語による受信発信の支援を目指したニーズ調査とリソース開発」研究代表者: 大島弥生 (研究分担者)

- 3) 科学研究費補助金 基盤研究(C) 「グローバル化時代の自己表現のためのパブリックスピーキングに関する研究」 研究代表者：深澤のぞみ (研究分担者)
- 4) 科学研究費補助金 基盤研究(C) 「日本人の言語行動におけるポライトネス—異文化理解教育の方法論開発」 研究代表者：松村瑞子 (研究分担者)

17. 国際交流センターに関する新聞記事等



2014年(平成26年)4月30日(木曜日)

国際交流センターで、各国の留学生と教職員が交流している様子。



留学生たちが手際よく料理を盛り付けている様子。

国際交流センターで、留学生たちが交流している様子。



留学生たちが野外でテントを張り、交流している様子。

国際交流センターで、留学生たちが交流している様子。



世界の国が... 母国での研究生生活が夢

国際交流センターで、留学生たちが交流している様子。



W杯 西胆振も熱気

水着で魚たちが応援 飲食店で観戦プラン

国際交流センターで、留学生たちが交流している様子。



留学生たちが交流している様子。

国際交流センターで、留学生たちが交流している様子。



和装お似合い、笑顔でパチリ

国際交流センターで、留学生たちが交流している様子。



物心両面から温かく

国際交流センターで、留学生たちが交流している様子。



室工大留学生らの母代わり

国際交流センターで、留学生たちが交流している様子。



38人の門出祝う

卒業生や職員らが交流会

国際交流センターで、留学生たちが交流している様子。



留学生が名残惜しみ交流

●室開 室工大留学生の卒業、修了を祝う「留学生交流会」が2日夜、市内で開催された。

国際交流センターで、留学生たちが交流している様子。



お国柄豊かに 留学生交流会

室工大を卒業、修了した留学生たちが、お国柄豊かに交流している様子。

国際交流センターで、留学生たちが交流している様子。

フィンランドへの留学成果など報告

室蘭工業大学大学院生(情報通信工学専攻2年)の長舟和馬さん(24)の「フィンランド留学と異文化交流報告展」が14日から19日まで室蘭市海岸町の市民活動センターで開催される。長舟さんは昨年9月1日から今年2月10日までフィンランドに留学し、風力発電のシミュレーション、電気の取り組、研究のやり方など、報告展では現地での研究内容を展示し、真の研究成果を伝える。報告の時間は午前10時から午後8時(最終日は午後7時)。問い合わせは「タリ」電話0143-7070番へ。



交流プレー楽しむ

室蘭工業大学とフィンランドの学生がサッカーで交流プレーを楽しんだ。



海岸や市道美しく

室蘭工業大学とフィンランドの学生が海岸や市道の清掃活動を行った。

水でドラム缶つぶれ フィンランドでの研究伝える



長舟さんは昨年1年(平成25年)9月1日から今年2月10日までフィンランドで海外での研究の成果、自身の成長を目的に留学した。会場は海岸町の市民活動センター。フィンランドの風力発電、サンタ村、カネン湖などの現地の様子、また生活環境や文化の違いなどを紹介し、風力発電のシミュレーションの資料も、現地で行った研究の成果や、環境問題、エネルギー問題、社会問題などについて、長舟さんの研究内容を詳しく説明した。

留学生も講師役に

長舟さんは、フィンランドでの研究内容を、留学生にも講師役として紹介した。



「この研究が、フィンランドに活かされ、公認の取組も、期待されている」と話した。(長舟和馬)

タリ
0143-22-5121
0143-22-5122
0143-22-5123
0143-22-5124

西遊記と日本海 興味深く

記者 中野美代子さん解説



感激イルカ100頭

市立室蘭看護専門学校と室蘭市立看護専門学校

市立室蘭看護専門学校と室蘭市立看護専門学校が、イルカ100頭を寄付した。

12人の卒業生・修了生に博士や学士の学位記が贈られた

室工大の14年度 9月期学位記授与式

室蘭工業大学(佐藤一彦学長)の2014年度(平成26年度)9月期学位記授与式が25日、同大で行われ、12人の卒業生・修了生に博士や学士の学位記が贈られた。

内訳は学部生4人、大学院博士前期課程1人、同後期課程6人、論文博士1人。このうち学部生4人と同後期課程の5人が贈られた。この日は午前11時から式が行われ、佐藤学長から一人ずつに学位記が手渡された。

佐藤学長は「本学で学んだ知識、リテラシー、課題解決力、研究意欲が研究能力を伸ばして、社会に新たな価値と活力を創造していただきたい」と激励した。(成田真由子)

内モンゴルに参考書寄贈

活動資金づくりへ 10月・現地民芸品バザー

室蘭工業大学が、内モンゴルに参考書を寄贈した。

高原にモンゴルの風

馬頭琴演奏、ゲル公開

室蘭工業大学が、高原にモンゴルの風をテーマにしたイベントを開催した。

留学生が名残惜しみ交流

室蘭工業大学留学生の卒業、修了を祝う「留学生交流会」が2日夜、市内で開催された。



国境越え書評合戦 25日、室蘭で世界大会

第17回「国境越え書評合戦」世界大会が25日、室蘭市立中央図書館で開かれ、世界各国から参加した学生が、読んだ本について感想文を提出し、審査員による採点が行われた。大会は、国際交流を促進し、異文化理解を深めることを目的として開催されている。



「先進的な研究者を招聘します」と宣言する 新入生代表の立川さん

先進的な研究者目指す 室工大10月期入生宣誓式

室蘭工業大学10月期新入生の宣誓式が25日、学芸ホールで挙行了。新入生代表の立川君は、入学を機に「先進的な研究者を目指し、国際交流を推進する」と宣言した。

恒久平和を誓う 室蘭で中国人怒りの集い



恒久平和を誓う中国人怒りの集い

恒久平和を誓う中国人怒りの集い。参加者たちは、平和を願い、恒久的な平和を誓った。

若者男女に 魅力伝える

若者男女に魅力を伝えるためのイベントが開催された。参加者たちは、様々な交流を通じて、互いの魅力を発見し合った。



室工大・学術交流協定 過去最高

室工大・学術交流協定 過去最高

室蘭工業大学と海外の大学間で学術交流協定が締結され、過去最高の数に達した。これは、国際交流の拡大を示す重要な成果である。

17カ国40大学・研究機関

17カ国40大学・研究機関との学術交流協定が締結された。これは、室工大の国際化を推進する重要なステップである。

室工大を市民らに見学

市民らによる室工大の見学が行われ、大学の最新の設備や研究成果について説明を受けた。



留学生ら茶会楽しむ

留学生ら茶会楽しむ

留学生と教職員が参加する茶会が開催された。和やかな雰囲気の中で、交流が深められた。



留学生ら茶会楽しむ

留学生ら茶会楽しむ

留学生らと教職員が参加する茶会が開催された。和やかな雰囲気の中で、交流が深められた。



家庭料理を学ぶ

家庭料理を学ぶ

家庭料理を学ぶワークショップが開催された。参加者たちは、日本の家庭料理の魅力を体験した。

市民団体、友好促進願

市民団体が友好促進を願う。地域の活性化と国際交流の推進を目指している。

蘭島コンサート

蘭島コンサートが開催された。素晴らしい演奏が聴き手たちを魅了した。

蘭島コンサート

蘭島コンサートが開催された。素晴らしい演奏が聴き手たちを魅了した。

そうなんだタイ

室工大留学生とタイ人学生が交流する様子

登別、洞爺駅に通訳 催し集中 外国人に対処

JR 1カ月前配置中

通訳ボランティアの活動の様子

室工大留学生と八丁平小3年 学んで遊んで交流

交流活動の様子

中国語講座

中国語の勉強会

馬頭琴は東洋のチェロ

伝統楽器の演奏

中国語理解講座

中国語の勉強会

ものづくりで交流

妻の大学生 室工大で鋳造体験

鋳造体験の様子

日本語認定 1級にも格別

中国から留学して研究に専念している大学院生 依 徳白さん

日本語認定1級の取得

米国研修実り多く

研修活動の様子

和装お似合い、笑顔でパチリ

室工大留学生とタイ人学生が和装を着て交流する様子

和装交流の様子

日本人学生と留学生 討論授業 室工大

異文化理解広がる視野

討論授業の様子

英語力向上、留学に意欲

室工大 貴重な経験語り合う

留学体験談の共有

38人の門出祝い

卒業生や職員らが交流会

卒業生の門出祝い

留学生が名残惜しみ交流

●室蘭 室蘭工大留学生の卒業、修了を祝う「留学生交流会」が2日夜、市内で開催された。

留学生交流会の様子

お国柄豊かに留学生交流会

室工大を卒業、修了した留学生の交流

留学生交流会の様子

18. おわりに

国際交流センター准教授 山路奈保子

2015年4月25日、ネパールでマグニチュード7.8の地震が発生し、死者が8,000人を超えるなど大きな被害が出ました。室蘭工業大学に留学している2人のネパール人留学生も、家族は無事だということでしたが、大変なショックを受けていました。地震の翌日には「家族には帰ってくるなど言われた。遠くにいて何もできないのが辛い」と目を潤ませていましたが、そのまた翌日、タイ人・ベトナム人・インドネシア人の学生に囲まれて国際交流センターにやってきて、「募金をしたい」と申し出たので、彼らを発起人として国際交流センター事務室内に募金箱を設置しました。ちょうど5月上旬に新入学留学生歓迎交流会がありましたので、会場に募金箱を置いて、ネパール人学生および国際交流クラブの学生たちに呼びかけをしてもらった(そして、ベトナム人学生が募金箱を持って「マネー！マネー！」と叫びながら学生たちを追いかけ回した)ところ、予想以上の募金が集まりました。その後も、研究室で学生たちから集めた硬貨のぎっしりつまった重い空き瓶を運んでくださった先生、国際交流センターにサッと現れてサッと高額紙幣を募金箱につっこみサッと去っていったオトコマエな先生、その他学外・学内の多くの方々が国際交流センターを訪れたついでに、あるいはわざわざ足を運んで募金してくださり、計16万4,993円、日本赤十字社にネパール地震救援金として振り込むことができました。ご協力いただいた方々には、発起人の留学生たちに代わりまして、厚く御礼申し上げます。これからの支援に必要な費用全体からすれば、金額としてはごくごく小さなものになってしまいますが、多くの人々からの募金があったことは、本学ネパール人学生とその家族、友人たちにとっては大きな励みとなるはずです。そして、本学の学生たちが、遠く離れた地に暮らす人々につながろうとするきっかけとなってくれた留学生たちの存在に心から感謝したいと思います。

さて、本学の留学生は2015年5月時点で135名を数え、「過去最高」を順調に更新し続けています。また外国人の研究者や研修生も増えました。留学生に誘われて国際交流センターのイベントに参加してくれる日本人学生も増えていて、学内での国際交流も豊かになってきたようです。一方で、本学学生の留学や海外研修は円安の影響もあり、人数的にはやや伸び悩んでいます。学生たちにとって意義があり、かつ金銭的負担の少ない魅力的な企画のために、私たちは日々知恵を絞っています。平成26年度は新たにアメリカ・ワシントン州のウェスタン・ワシントン大学での英語研修を初めて実施しました。また、応募者が集まらずこれまで2回不成立となった中国・武漢の華南科技大学での中国語研修が、3度目の募集にして5名の参加を得てようやく実施にこぎつけることができました。いまや海外の短期研修先はアメリカ・オーストラリア・ドイツ・中国・台湾・韓国・タイと実にバリエーション豊かになっています。研修に参加した学生たちは、現地での交流活動がいかにもその後の自信につながったかを口をそろえて語ってくれます。魅力ある研修がそろっていることはまちがいないので、あとはそれを学生全体にどう伝えていくか、私たちの試行錯誤は続きます。



室蘭工業大学

MURORAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY

室蘭工業大学 国際交流センター

〒050-8585 室蘭市水元町27番1号

<http://www.muroran-it.ac.jp/>

E-mail: kokusai@mmm.muroran-it.ac.jp

TEL: (0143) 46-5885

FAX: (0143) 46-5889

